

新明正道著作目録

松田 義男 編
改訂 2023年12月05日
2010年04月28日

目次

1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)
2. 論文等(新聞・雑誌掲載)
3. 戦時評論集初出一覧

凡例

- *「1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)」、「2. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列し、「3. 戦時評論集初出一覧」を付した。
- *叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- *単著については、目次構成を【 】に示した。連載評論についても、副題が各回で異なる場合【 】に示した。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1・1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *連載は、初回掲載に一括した。
- *再録書は、初出の注記として[]に記した。『新明正道著作集』全8巻(誠信書房、1976～1985年)は『著作集』、山本鎮雄編『新明正道時評集』(日本経済評論社、2007年)は『時評集』と略記した。
- *ペンネームの使用は< >に記した。また、『同盟通信 時事解説』紙に1944年4月1日から「時論要解」欄が新設され、新明は「社会」部門の「主査」として執筆しているが、1944年9月までは署名がない。10月以後では「社会」部門の執筆者は、斉藤信治、樺俊雄、松本潤一郎、大道安二郎、阿閉吉男の署名で掲載された数篇が確認できる。本目録では、新明正道の署名が確認できたもののみ採録した。京都大学経済学部図書所蔵資料を利用したが欠号・欠頁や、所蔵されていても保存状態が良くないため閲覧不可になっているものもあり、採録できたのは実際の執筆点数の半数に満たないかもしれない。
- *編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- *その他、編者の注記を適宜[]に記した。

本著作目録作成に際しては、「新明正道教授略年譜・著作目録」(『Sociologica』8-1、1983年12月)37～57頁、「新明正道先生著作目録」(『新明社会学とその周辺』東北社会学研究会編・刊、1985年)554～585頁、「新明正道論文目録」(山本鎮雄・田野崎昭夫編『新明社会学の研究—論考と資料—』時潮社、1996年)429～469頁を参照し、石川県立図書館、大阪府立中央図書館、岡山県立図書館、岡山大学附属図書館、関西大学図書館、京都大学附属図書館・同法学部図書室・同大学院経済学研究科・経済学部図書室、倉敷市立中央図書館、神戸学院大学有瀬図書館、神戸市立中央図書館、神戸大学社会科学系図書館・同経済経営研究所・同国際文化学図書館、高野山大学図書館、国立国会図書館、国立教育政策研究所教育研究情報センター教育図書館、昭和館、中央大学中央図書館、東京大学文学部図書室・同情報学環附属社会情報研究資料センター、同志社大学今出川図書館・同人文科学研究所、東北大学附属図書館、日本近代文学館、兵庫県立大学神戸学園都市学術情報館、法政大学大原社会問題研究所、宮城県図書館、早稲田大学中央図書館・同教育学部教員図書室より資料閲覧・複写の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書（編著・共著・訳書・監修等含む）

砂丘[短歌 40 首]『みとせ』白雨社同人編・刊、[1918 年]

『ギルド国家論』[訳書：テイラー著 G. R. S. Taylor, *The guild state : its principles and possibilities*, 1919] 大鑑閣、1920 年 10 月 25 日

亡き友に[「追想」]『村上堯遺稿』非売品、1920 年[序の日付は 1920 年 11 月 29 日]

『財産とは何ぞや』[訳書：プルドン著 P.-J. Proudhon, *Qu'est-ce que la propriété?*] <新人会叢書 第 3 編>聚英閣、1921 年 4 月 20 日

『ソフィストの政治学的研究』 <政治研究 第 5 輯>内外出版、1921 年 9 月 25 日【序言、1 時代的背景、2 ソフィストの名称、3 ソフィストの特徴、4 ソフィストの代表者、5 ソフィストの哲学的方面、6 ソフィストの政治学的方面、7 ソフィストの反対者、8 歴史と相対主義の表現】 [『著作集』7 収録]

『軍国主義論』[訳書：リーブクネヒト著 Karl Paul August Friedrich Liebknecht, *Militarismus und Antimilitarismus*]三田書房、1921 年 11 月 28 日

『世界文化史大系 第三巻』[訳書：ウェルス著 H. G. Wells, *The outline of history*]大鑑閣、1921 年 12 月 30 日

『世界文化史大系 第四巻』[共訳書：ウェルス著 H. G. Wells, *The outline of history*]大鑑閣、1922 年 1 月 30 日

革命ロシアの教育『革命ロシア研究十講』田所照明編、酒井書店、1922 年 10 月 28 日

『社会学序説』大鑑閣、1922 年 11 月 30 日【1 人間生活と動物生活、2 社会組織の批判、3 統制と国家の本質、4 階級社会発展の基礎、5 国家意識と社会連帯説、6 現代制度の性的方面、7 国家主権否定の傾向、8 直接的行動と暴力、9 個人的自由と社会的自由、10 社会進化の示唆】 [『著作集』1 収録]

『権力と社会』内外出版、1924 年 6 月 25 日【1 権力の社会的意義、2 権力の古代的様相、3 権力の近代的様相(一)権力の性質、4 権力の近代的様相(二)権力の相互関係、5 権力進化の傾向及び批判、付録(社会構成化について)】

自由大学の精神『伊那自由大学とは何か』 <自由大学パンフレット 1>信濃時事印刷部、1924 年 8 月 10 日 [『自由大学雑誌』第 6 号(1925 年 6 月 10 日)、自由大学研究会編『自由大学運動と現代 自由大学運動六〇周年集会報告集』(信州白樺、1983 年 10 月 10 日)収録]

『社会学と政治理論』[訳書：バーネス著 Harry Elmer Barnes, *Sociology and political theory: a consideration of the sociological basis of politics*, 1924]聚英閣、1925 年 4 月 10 日

社会学史『社会問題講座』1~5、7 巻、大宅壮一編、新潮社、1926 年 3 月 20 日、4 月 12 日、5 月 12 日、6 月 12 日[奥付の刊行日 5 月 12 日は誤植と判断した]、7 月 12 日、9 月 12 日[合冊本『社会問題講座 第 4 巻 社会学及雑篇』収録]

当今政治の一現象—ルムペンブルヂョアの意義—『社会経済体系』第 2 巻、日本評論社、1926 年 12 月 25 日

社会学講座『アルス文化大講座』第 3~5、10、11 巻、1927 年 1 月 18 日[奥表紙・裏表紙では 20 日刊と記載]、2 月 15 日[裏表紙では 18 日刊と記載]、3 月 13 日、12 月 15 日、1928 年 5 月 15 日、11 月 10 日[表紙・裏表紙では 9 月 10 日と記載]

形式社会学及現象学的社会学『社会経済体系』第 7、8、10 巻、日本評論社、1927 年 5 月 25 日、6 月 30 日、8 月 30 日【1 総合社会学との対照、2 形式社会学の地位、3 形式社会学と現象学的社会学との関係、

- 4 結論】[拡大・補強して『独逸社会学』<社会科学叢書 第16編>(日本評論社、1929年2月10日)として刊]
- 『諸家の大杉観』『未刊大杉栄遺稿』安谷寛一編、金星堂、1928年1月10日[『定本・大杉栄全集別巻』(世界文庫、1964年7月5日)収録]
- 『形式社会学論』巖松堂書店、1928年5月30日【序論 1形式社会学の発展、2形式社会学の方法論、3形式社会学の社会概念、4形式社会学の主要理論、5形式社会学への批判】[『著作集』4収録]
- ヘーゲル国法批判論[マルクス著・服部英太郎との共訳]『マルクス=エンゲルス全集 第1巻』改造社、1928年6月25日
- 教育に於ける社会学の任務『思想善導論』<『教育学術界』第58巻秋季特別増刊号>モナス、1928年11月1日[復刻版『思想善導論』<日本教育史基本文献 史料叢書 7>(大空社、1991年)収録]
- 『独逸社会学』<社会科学叢書 第16編>日本評論社、1929年2月10日【1現代の独逸社会学の回顧、2社会学の对象的傾向、3方法的社会学の提唱、結論】[『著作集』4収録]
- 『群集社会学』<ロゴス叢書 第3編>ロゴス書院、1929年5月1日【序論 群集の分析(1群集の概念、2群集の特徴、3群集の組織、4群集の過程)、群集の問題(5群集の淵源、6群集の対策、7群集と政治)、群集の理論】[『著作集』9収録]
- 『社会学』<続哲学叢書 第5編>岩波書店、1929年6月10日【序論 社会学論(1社会学体系論、2社会学組織論、3社会学方法論)、本論 社会学内容論(1社会論、2社会現象論)】[『著作集』1収録]
- 現代社会研究『大思想エンサイクロペディア 第一四巻 社会学(B)』春秋社、1930年4月20日
- アメリカ社会学/イギリス社会学/イタリー社会学/ウェーベル/コント/コンドルセー/社会学/社会環境説/社会関係/社会関係論/社会規範/社会形象/社会進化論/社会心理学/社会地理学/社会の形成/社会の成立/社会の分化/社会の分散/社会法則/社会有機体説/社会力/社交/ジメル/スペンサー/ソフィスト/ソレル/デュルケム/ドイツ社会学/日本社会学/ブーグレ/フォイエルバッツハ/フランス社会学/民族心理学『社会科学大辞典』社会思想社編、改造社、1930年5月15日[改訂縮刷版:『改訂縮刷 社会科学大辞典』改造社、1932年4月8日]
- 社会学概論『社会科学講座 第10巻』誠文堂、1931年10月10日
- 『欧州の危機』日本評論社、1931年11月23日【独逸篇(1『独逸、独逸、万国の下に』、2反動の高まる波瀾、3文化と大学の自由、4ヤング案の影に、5独裁への進軍、6ラインの解放、7ドイツ総選挙の側面、8ドイツ政治の現段階、9半独裁への転歩)、英仏篇(1労働党下の英国、2フランスの新展望、3英仏間の関係冷却)、ヨーロッパ篇(1ヨーロッパ合衆国への道、2ヨーロッパの危機とその帰結)、エピローグ(世界危機への転換)】
- 社会意識の問題『岩波講座 哲学 体系的研究—意識の問題—』岩波書店、1932年3月5日
- 形式社会学及び関係社会学『岩波講座 教育科学 第六冊』岩波書店、1932年3月20日[「形式社会学および関係学の行衛」と改題『ゲマインシャフト[旧版]』、「形式社会学の発展」と改題『綜合社会学の構想』収録]
- 『知識社会学の諸相』宝文館、1932年9月10日【1知識社会学の独裁への進軍、歴史性、2実証主義的知識社会学、3現象学的知識社会学、4歴史主義的知識社会学】[『著作集』6収録]
- 『社会学序講』大畑書店、1932年11月10日【1社会学の構造、2社会力の組織、3社会の組織、4社会学の歴史批判】[『著作集』1収録]【1社会学について、2社会力について、3社会について、4社会学の歴史的批判】
- 『イデオロギーの系譜学—第一部—』[編著]大畑書店、1933年10月25日[第1章「マキアヴェルリの政治

的人間学」、第2章「ペーコンの科学的改革論」、第4章「ド・トラシーの『イデオロギー』論」を執筆。それぞれ「マキアヴェルリの政治心理学」、「ペーコンの知識哲学」、「ド・トラシーの『イデオロギー』」と改題『イデオロギー論考』収録

『オーギュスト・コント』＜社会科学の建設者 人と学説叢書9＞三省堂、1935年5月10日【序章 コントの時代、1 コントの生涯、2 コントの学説、3 コントの学説の批判】

コントの体系に於ける矛盾について『哲学論集』＜東北帝国大学法文学部十周年記念＞岩波書店、1935年6月15日[「コントの社会学体系に於ける矛盾」と改題『著作集』5収録]

『社会学要講』弘文堂書房、1935年6月25日【1 社会学(1 社会学の科学的地位、2 社会学の総合性、3 社会学の現実性、4 社会学の理論性)、2 社会の形相(1 社会の定義、2 社会の基礎的要素、3 社会力の組織)、3 綜合社会の形相(1 綜合社会の概念、2 綜合社会の要素、3 綜合社会の組織、4 綜合社会の歴史的形相)、4 国民社会の形相(1 国民社会の意義、2 その総合的形相、3 その経済的集団構成、4 その政治的集団構成、5 その文化的集団構成)、5 社会学の歴史批判(1 歴史批判の基準、2 社会学の起源、3 社会学の諸段階)】

パレートの知識社会学『現代知識社会学論』[編著]巖松堂書店、1935年10月15日

『国民革命の社会学』＜最近経済問題叢書1＞甲文堂書店、1935年12月20日【1 国民革命の社会学、2 フライヤーの社会学の概念、3 フライヤーのロゴス科学的社会学の検討、4 フライヤーの現実科学的社会学の検討、5 フライヤーの社会学の体系の輪郭、6 フライヤーにおける国民革命の理論】[2を「現実科学としての社会学」と改題『綜合社会学の構想』収録]

社会学的国家観『経済学辞典 追補』岩波書店、1936年10月20日

* 『種族と社会』＜昭和十一年度夏期大学講演集＞満鉄社員会、1936年

国家学『現代哲学辞典』三木清編、日本評論社、1936年9月20日[第2版：1947年4月10日]

『ファシズムの社会観』岩波書店、1936年12月25日【1 イタリアのファシズム運動(1 ファシズムの歴史的形相、2 イタリアのファシズム運動)、2 イタリアのファシズムの社会的国家的観念(1 ファシズムの社会観念、2 ファシズムの国家観念、3 ファシズムの協同体国家の観念)、3 イタリアのファシズムと関連する社会学の諸体系(1 ソレルとファシズムとの関連、2 パレート社会学の基礎理論、3 パレートの選良循環論について、4 ニイチェ哲学の社会学的性格、5 ニイチェにおける超人と永劫回帰の思想の社会学的解釈)】[『著作集』7収録]

『ゲマインシャフト』刀江書院、1937年9月20日【1 ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、2 ゲマインシャフト論の構造分析、3 形式社会学及び関係学の行衛、4 ジンメルとテンニースとの問題的関連、5 オッペンハイマーの社会関係論】

現代学生の性格『現代学生論』[三木清編]矢の倉書店、1937年9月24日[復刻：『近代日本青年期教育叢書 第1期 青年期教育論 第4巻』(日本図書センター、1990年)]

血縁論『家族制度全集 史論篇 第三巻 親子』河出書房、1937年12月20日[復刻：『家族制度全集 第3巻 史論篇・親子』(日本図書センター、2009年)][『民族社会学の構想』収録]

家族構成論『家族制度全集 史論篇 第四巻 家』河出書房、1938年1月20日[復刻：『家族制度全集 第4巻 史論篇・家』(日本図書センター、2009年)][『民族社会学の構想』、老川寛監修『家族構造』＜家族研究論文資料集成 明治大正昭和前期篇 第6巻＞(クレス出版、2000年)収録]

新聞界の回顧『一九三八年版 文芸豆年鑑』作品社、1938年2月1日

『文化の課題』河出書房、1938年2月20日【1 知識人の性格(1 知識人の横顔、2 学生の無性格、3 学生は髪を切るべきか、4 学生の道徳、5 大学と世界観の論議、6 自由主義の将来、7 議会主義と合理主義、8 イタリアの時局教育、9 近代種族理論)、2 科学と文学(1 歴史と伝統、2 科学の敵、3 文学の翼、4 思想と

文学、5 知性への不信、6『地下室の人間』—ジェストフのここと—、7 現代作家の社会意識)、3 文化の課題(1 現代文化の反省、2 映画の文化的役割、3 デュヴィヴィエ、4 映画の敗北—フェーデエについて—、5 ラジオ批判の考察、6 ラジオの文化的指導性、7 ラジオの娯楽性と倫理性、8 日本文化と世界文化、9 国民的性格論、10 戦後のフランス思想家)

実用主義概論『実用主義』<廿世紀思想 第2巻>河出書房、1938年6月10日[「実用主義について」と改題『民族社会学の構想』収録]

雑誌『文芸豆年鑑 昭和十四年版』作品社、1938年12月30日

市民社会の人間観『人間の宗教的歴史的考察』<人間学講座IV>理想社出版部、1939年1月25日[「市民的人間」と改題『民族社会学の構想』『著作集』10収録]

ヴィルフレド・パレート『全体主義』<廿世紀思想 第8巻>河出書房、1939年3月18日[『民族社会学の構想』『社会学的功能主義』収録]

『社会学の基礎問題』弘文堂、1939年6月1日[第5版:1951年7月30日]【1 社会認識の二途、2 社会学の組織問題、3 社会学的概念構成、4 行為関連の立場、5 歴史的社会的概念】[『著作集』2収録]

民族社会の成立における戦争の役割『民族と戦争』日本青年外交協会、1939年6月18日[「戦争の本質と諸形式」と改題『民族社会学の構想』収録]

『東亜協同体の理想』日本青年外交協会出版部、1939年10月8日【緒論 東亜の国民の啓蒙、1 日支事変の教へるもの、2 新東亜社会建設への責務、3 東亜協同体と民族主義、4 東亜協同体と人種理論、5 東亜新文化の基礎的方向、6 国民社会新組織の問題、7 東亜協同体と協同主義、8 東亜協同体論の動向】

現代の社会生活『現代社会生活』<現代教養講座 第6巻>三笠書房、1940年1月18日[「群集時代の克服」と改題『思想への欲求』『著作集』9収録]

新聞雑誌界の回顧『文芸豆年鑑 昭和十五年版』作品社、1940年3月15日

『人種と社会』河出書房、1940年4月6日【1 人種と社会(1 人種問題の意義、2 人種概念規定、3 人種分類の試み、4 人種分類の基準、5 体質と精神的能力、6 精神的能力の遺傳、7 社会と人種との区別)、2 人種主義の理論(1 人種主義の起源、2 ゴビノーの人種主義、3 チェムバーレンの人種主義、4 ド・ラプーデュとアモンの人種主義、5 ナチズムの国家的人種主義、6 人種主義の人類学的批判、7 人種主義の社会学的批判)、3 人種主義的政策(1 人種主義的政策の本質、2 人種主義的対内政策、3 人種主義的対外政策、4 人種主義的人口政策(一)、5 人種主義的人口政策(二))] [『著作集』8収録]

欧羅巴の人種、国民及び民族『欧洲総論・北欧』<世界地理 第11巻>河出書房、1940年5月4日[「欧羅巴国民の考察」と改題『民族社会学の構想』収録]

青年と社会『社会史』加田哲二著<現代日本文明史 第11巻>付録第2号、東洋経済新報社、1940年8月26日[「青年問題の意義」と改題『思想への欲求』収録]

現代の学生論『学生のための教養』<学生教養講座 第1巻>三笠書房、1940年12月15日[『思想への欲求』収録]

『社会学』<朝日新講座2>朝日新聞社、1941年3月10日【1 社会学の目的、2 人間と社会、3 人間社会の機構、4 近代社会の組織、5 現代社会の問題】

国家論／全体主義『新版現代哲学辞典』日本評論社、1941年3月20日

『思想への欲求』三笠書房、1941年4月12日【1 思想への欲求(1 二十世紀の政治、2 群集時代の克服、3 思想への欲求、4 イデオロギーの頹廢、5 思想的轉換の動向、6 現時の日本社会科学、7 新体制と個性、8 思想動員の要諦、9 思想統制の問題、10 日本主義の創造的契機)、2 青年と学生(1 青年問題の意義、2 青年と新体制、3 試験地獄、4 学生政策論、5 青年政策の反省、6 現代の学生論、7 学問の自主性と政治、8 知

性の問題を繞つて、9 新時代に生きる女性へ、10 女性と読書について)、3 新文化の進路(1 科学と道徳、2 道具の社会的理念、3 機械と手、4 産業発展の要素、5 科学大衆化について、6 放送と国民文化、7 ギャーナリズムの変貌、8 ある作家への期待、9 美術家の進路、10 日本人の分析—林語堂はこれをどう分析したか—、11 日本人の気持、12 支那と文化日本)】

革命『社会科学新辞典』中山伊知郎・三木清・永田清編、河出書房、1941年4月30日[改訂版：河出書房、1946年6月10日]

日本の社会—東亜との関連において—『日本』<世界地理 第1巻>河出書房、1941年5月4日

『政治の理論』慶應書房、1941年9月15日【第1部 国民再組織(1 国民再組織の将来、2 国民再組織の問題、3 超克さるべき現政局、4 新党運動の根底にあるもの、5 単一政党運動批判、6 転換期政局の基調、7 新体制の政治学、8 新体制と国民組織、9 大政翼賛会の本質、10 大政翼賛会の出発、11 大政翼賛会の進路、12 大政翼賛会の性格について、13 翼賛会運動の危機、14 革新の停滞とその打開、15 政治力の追求)、第2部 東亜における新秩序(1 近衛声明一周年、2 東亜新秩序建設の目的、3 三民主義の新時代的意義、4 東亜新秩序の歴史的意義、5 東亜新秩序の反共的性格、6 東亜協同体と国民再編成、7 東亜連盟論の理論的検討、8 新東亜建設政策の全体的統合へ、9 新東亜建設戦の現段階、10 和平支那と新東亜建設理論、11 いかにして新東亜建設運動を前進せしむべきか、12 興亜政策への基本的認識、13 アジア民族政策論、14 事変新局面の展望)、第3部 世界政策の新展望(1 世界政策構成の諸要素、2 共産主義の転落、3 独逸は変貌するか、4 独逸と世界新秩序、5 アメリカの社会的動向)】

職能再組織の諸問題『現代政治体制の再組織論』<現代日本政治講座 第5巻>昭和書房、1941年12月25日

日本文化の再編成『新文化の理論』<新文化論講座 第1巻>刀江書店、1942年1月15日

新日本の理想『皇国思想の本源』<皇国精神叢書 第二輯>皇国青年教育協会、1942年6月18日

西洋的教養について『現代修養論』教材社、1942年7月1日

『社会本質論』弘文堂、1942年7月1日【1 社会の本質、2 人間的行為、3 行為の意味、4 行為の交渉性、5 行為の集団性】[『著作集』2収録]

ファシズム国家論『国家学及政治学(一)』<日本国家科学大系 第3巻>実業之日本社、1942年9月22日 [『著作集』7収録]

『民族社会学の構想』三笠書房、1942年10月20日【第1部(1 民族の概念、2 民族の起源、3 民族主義と国民主義、4 人種主義について、5 欧羅巴国民の考察)、第2部(1 戦争の本質と諸形式、2 社会進化と戦争、3 戦時生活の倫理)、第3部(1 血縁論、2 家族構成論、3 都市社会学の方法論、4 パレート社会学の論理、5 ヴィルフレド・パレート、6 実用主義について、7 経済人の終焉、8 三つの人間学、9 市民的人間)】

母の読書『これからの母・新しい母』高良富子監修、鮎書房、1942年11月10日

*『三民主義の理論的批判 民族自決から民族総合』<亜細亜復興史論 第3部A>出版社不明、[1942年?]

『社会と青年』<青年文化全集>潮文閣、1943年7月5日【1 青年の社会的意義、2 青年の世代的特性、3 青年の社会的形成、4 家庭と青年、5 学校と青年、6 職場と青年、7 民族と青年、8 国家と青年、9 青年の新しき形成】[『近代日本青年期教育叢書 第1期(青年期教育論) 第8巻』(日本図書センター、1990年)収録]

決戦への思想戦『思想戦の根基』<日本思想戦叢書 第2輯>大日本言論報国会編、同盟通信社出版部、1943年9月1日

歴史社会学の意義『時代と学問』永田清編、慶応出版社、1943年9月21日[『社会学の立場』『総合社会学の構想』『著作集』3収録]

『社会学辞典』[編著]河出書房、1944年8月20日【1社会学(1社会学論、2社会本質論、3社会統体論、4社会構成論、5社会變動論、6原始社会論、7文明社会論)、2社会学史(1社会学の成立、2フランス社会学、3イギリス社会学、4ドイツ社会学、5アメリカ社会学、6イタリア社会学、7ロシア社会学、8日本社会学)】[復刻版：『社会学辞典(復刻・増補版)』時潮社、2009年1月30日]

文化圏の社会学的考察『日本諸学研究報告 昭和十九年四月 特輯 第十二篇(哲學)』文部省教学局編、印刷局、1944年9月20日[『著作集』10収録]

民族の本質『民族の理論』<民族科学体系1>民族科学研究所編、育英出版、1944年11月15日

『デモクラシー概論』河出書房、1946年5月20日【序章 再建におけるデモクラシーの要請、1近代デモクラシーの成立、2近代デモクラシーの政治機構、3近代デモクラシーの展開—自由主義と社会主義—、4近代デモクラシーの危機—議会主義を中心として—、5日本におけるデモクラシー】

輿論『民主主義の諸問題』<民主主義講座3>堀真琴・権俊雄編、愛育社、1946年9月10日

マルクス主義及共産主義『民主主義の原理及歴史 下』<民主主義大講座 第2巻>日本正学館、1946年9月30日

『社会学の発端』有恒社、1947年2月1日【1自然法と社会学との関連、2近代自然法における社会学、3社会構成の概念について、4メンツェル「自然法と社会学」、5ゾンバルト「社会学の起源」、6フィアカント「近代自然法の精神的倫理的内容」】[『著作集』5収録]

『修正派マルクス主義』[訳書：ベルンシュタイン著『社会主義の前提と社会民主党の任務』(Eduard Bernstein, *Die Voraussetzungen des Sozialismus und die Aufgaben der Sozialdemokratie*)<社会思想新書>鱒書房、1947年2月20日

社会意識概論『社会意識』<社会科学講座 第4巻>国際社会科学協会編、二見書房、1947年5月15日

社会科学概論『科学教養講座 社会科学篇』三笠書房、1947年6月10日

『史的民族理論』岩崎書店、1948年4月30日【1民族の概念、2民族の本質、3民族の歴史的起源、4近代民族の生成、5近代民族主義の展開】[『著作集』8収録]

『国民性の改造』有恒社、1948年5月5日【1問題の意義、2改造の可能性、3国民性の反省、4国民性論批判、5改造の諸途】

コント『近代思想講座V』六和商事、1948年5月10日

功利主義『近代思想講座III』六和商事、1948年5月15日[「功利主義の近代的系譜」と改題『著作集』5収録]

民族問題『人口と民族』田辺寿利編<社会学大系 第4巻>国立書院、1948年9月30日[復刊：社会学体系刊行会(発売所：石泉社)、1954年5月25日(復刻：日本図書センター、2007年)]

権力/権力関係/行為/社会学/選良/パレト『社会科学小辞典』霞書房、1948年12月30日

『社会学の立場』大濤社、1949年1月15日【1社会学的認識の要請、2形式社会学の克服、3文化社会学の構成、4社会学と歴史哲学、5方法としての社会学、6総合社会学の立場、7総社会学の諸問題、8歴史社会学の意義、9歴史社会学の一例—マックス・ウェーバーの立場について—、10段階理論の再認識】[『著作集』3収録]

特殊社会学の構成について『現代社会学の諸問題 戸田貞三博士還暦祝賀紀念論文集』東京大学社会学会編、弘文堂、1949年2月5日[「特殊社会学の構成」と改題『総合社会学の構想』収録]

国民『社会科事典 第四巻』平凡社、1949年2月28日

【ドイツ】社会・文化『社会科事典 第七巻』平凡社、1949年6月30日[『社会科事典 第七・八巻 補遺新

- 装版』平凡社、1955年4月15日]
- [日本文化]社会科学『社会科事典 第八巻』平凡社、1949年7月25日[『社会科事典 第七・八巻 補遺新装版』平凡社、1955年4月15日]
- 『イデオロギー論考』関書院、1949年10月20日【1イデオロギー論の系譜、2マキアヴェルリの政治心理学、3ベーコンの知識哲学、4ド・トラシーの『イデオロギー』、5マルクス・エンゲルスのイデオロギー論、6マンハイムの知識社会学】[『著作集』6収録]
- 政治哲学『現代哲学サイクロペディア』哲学評論編集部編、民友社、1949年11月15日
- 文化社会学『社会学研究の葉』戸田貞三編、中文館書店、1949年12月10日
- 社会変動論『社会学研究の葉』戸田貞三編、中文館書店、1949年12月10日
- 『社会学小辞典』[編著]岩崎書店、1950年2月5日
- 社会思想史概説／修正派マルクス主義／共産主義『社会思想史辞典』[編]創元社、1950年10月20日[改訂増補版：『新版社会思想史辞典』[編]創元社、1961年12月15日]
- ドイツ社会学と社会科学『社会科学の諸系譜』<社会科学講座 第Ⅱ巻>弘文堂、1950年11月25日[『著作集』5収録]
- 闘争『社会構成の原理』<社会科学講座 第Ⅲ巻>弘文堂、1950年12月15日
- 『社会学史』<社会学選書>有斐閣、1951年2月10日【1社会学史の意義、2社会学の発端、3社会学の成立、4社会学の発展、5社会学の現状、6社会学史の帰結】[『著作集』5収録]
- 序文『社会学教程』東北社会学研究会編、関書院、1951年5月20日
- 体育と社会学『体育の基礎科学』武藤完雄(東北大学医学部)編・刊、1952年9月10日
- ニーチェの社会観と社会思想『ニーチェ研究』氷上英広編、社会思想研究会出版部、1952年8月31日
- 紳士の微笑[「追憶文」]『松本潤一郎追憶』松本達治、1953年6月10日
- 社会変動の理論『教養講座社会学』林恵海・臼井二尚共編、有斐閣、1953年7月30日
- 社会とは何か『社会学の基礎』東京社会科学研究所編、日本書院、1953年10月10日
- 『社会学史概説』<岩波全書> 岩波書店、1954年2月5日【1社会学史について、2社会学の近代的起源、3古典的社会学の成立、4社会学の世界的発展とその成果、5現代における社会学の展開】
- 社会体系の概念について『社会学の諸問題 高田先生古稀祝賀論文集』小松堅太郎編、有斐閣、1954年3月20日[『社会学的機能主義』収録]
- 新しい眼と愛情をもつ[「推薦のこぼし」]『現代家族講座全 7巻』[出版内容見本]、河出書房、1955年11月配本開始
- 階級『経済学大辞典 第Ⅳ巻』東洋経済新報社、1955年12月25日[『著作集』9収録]
- 日本社会学の反省『日本社会学の課題 林恵海教授還暦記念論文集』有斐閣、1956年3月10日
- 序文『新稿社会学』東北社会学研究会編、文理圖書出版社、1956年4月15日
- 形式社会学『世界大百科事典 9』平凡社、1956年8月16日[『世界大百科事典 7』[新版]平凡社、1965年8月10日]
- 『民主社会における指導性』<IDE教育選書 18>民主教育協会、1958年1月10日【1民主社会における指導性、2理想としての民主的指導性、3近代民主政治の現実的成果、4近代民主政治の歴史的教訓、5民

主的指導性の現代的意義】

序文『世代・競争』カール・マンハイム著、鈴木広・田野崎昭夫訳、誠信書房、1958年4月5日

序文『保守主義—思考史的背景と現代性—』マンハイム著・森博訳、誠信書房、1958年4月15日

イデオロギー論『マンハイム研究』阿閉吉男編、勁草書房、1958年4月15日

ふるさとの思い出—少年少女のころ『少年少女文学風土記 ふるさとを訪ねて3 石川』室生犀星編、泰光堂、1959年4月15日

序文『基礎社会学』[編著]誠信書房、1959年4月25日

跋 さらに社会学の研究を進めるために『基礎社会学』[編著]誠信書房、1959年4月25日

『社会学と社会諸科学』[訳書：ケアンズ著]＜二十世紀の社会学IV＞誠信書房、1959年8月25日

序文『村の公民館テキスト ふるさ・貧しさ・さようなら』安達清著、関書院、1959年9月1日

序『シンポジウム道德教育』[編]民主教育協会、1959年12月15日[『戦後道德教育文献資料集 第Ⅱ期 23 シンポジウム道德教育』(日本図書センター、2004年)収録]

シンポジウム道德教育『シンポジウム道德教育』[編]民主教育協会、1959年12月15日[出席者：新明正道(司会)、海後宗臣、勝部真長、大島康正、高坂正顕、平塚益徳、林竹二、森昭、蛭山正道][『戦後道德教育文献資料集 第Ⅱ期 23 シンポジウム道德教育』(日本図書センター、2004年)収録]

転換期における教育[シンポジウム補足論文]『シンポジウム道德教育』[編]民主教育協会[IDE 版]、1959年12月15日[『戦後道德教育文献資料集 第Ⅱ期 23 シンポジウム道德教育』(日本図書センター、2004年)収録]

Georg Simmel's Influence on Japanese Thought, *Georg Simmel, 1858-1918 : a collection of essays, with translations and a bibliography*, edited by Kurt H. Wolff, Ohio State University Press, 1959

Japanese Sociology in its Social Context, *Transactions of the fourth World Congress of Sociology, Milan and Stresa, 8-15 September, 1959*, Vol.1, International Sociological Association, 1959

*La Sociologica Giapponese nel Suo Contesto Sociale, *La Sociologica nel Suo Contesto Sociale*, Editori Laterza, 1959

改訂版序文『基礎社会学 改訂版』[編著]誠信書房、1962年5月5日

地域社会の概念について『社会学における理論と実証 蔵内博士退官頌壽記念論文集』培風館、1963年9月20日[「地域社会の概念」と改題『著作集』10収録]

社会学の輪郭[「社会福祉のための社会学」の第1章]『社会福祉のための社会学・精神衛生』＜社会福祉講座 5＞新日本法規出版、1964年9月25日[『著作集』9収録]

話好きな花形教授『鈴木義男』鈴木義男伝記刊行会、1964年12月24日

社会学的機能主義—その理論的構成と問題点—『中央大学八十周年記念論文集 文学部』中央大学、1965年10月8日[「社会学的機能主義の成立とその一般的傾向」と改題『社会学的機能主義』収録]

美丈夫の学生—栗原君『栗原百寿—その人と憶い出—』大島清・松井保男編、栗原百寿追憶文集刊行会、1966年4月30日

教授時代の先輩[「人間・河上丈太郎の思い出 教授時代」]『河上丈太郎 十字架委員長の人と生涯』河上前委員長記念出版委員会編、日本社会党機関紙局、1966年12月3日

ドイツ留学中の思い出『服部英太郎著作集 第5巻 月報I』未来社、1966年12月[『ワイマール・ドイ

ツの回想』収録]

『新版 倫理・社会 指導の研究』[共著]教育図書、1967年2月10日

建部遯吾『越佐が生んだ日本の人物』第3集、新潟日報社、1967年3月10日[復刻：新潟日報事業社出版部、1994年9月1日]

社会体系の概念と社会学的機能主義『日本社会と近代化 米山桂三博士還暦記念論文集』慶応通信、1967年5月30日[「社会学的機能主義における社会体系の概念」と改題『社会学的機能主義』収録]

『社会学的機能主義』誠信書房、1967年11月20日【1 社会学的機能主義の成立とその一般的傾向、2 社会学的機能主義における社会体系の概念、3 社会学的機能主義における機能的分析の概念、4 社会変動の問題と社会学的機能主義、5 社会学における行為理論と社会学的機能主義、付録(1 社会体系の概念について、2 機能の概念について、3 ヴィルフレド・パレート)】

『総合社会学の構想』<社会学叢書>恒星社厚生閣、1968年11月10日【序論 総合社会学の立場、第1部(1 形式社会学の発展、2 形式社会学の克服、3 文化社会学の構想、4 総社会学の認識、5 特殊科学的「総合認識」、第2部(6 社会学と歴史哲学、7 歴史社会学の意義、8 歴史社会学の一例—マックス・ウェーバーの立場について—、9 段階理論の再認識、10 現実科学としての社会学)、第3部(11 方法としての社会学、12 特殊社会学の構成、13 国家社会学へのアプローチ、14 デュルケームの社会学主義)】

『新版 倫理・社会』[共著]教育図書、1969年2月5日[高等学校社会科2年用]

解説『長谷川如是閑選集 第三巻』栗田出版会、1970年1月20日[「長谷川如是閑先生の『現代社会批判』」と改題『現代社会学の視角』収録]

M.ウェーバー「行為理論」の社会学的意義『現代社会の構造と変動 早瀬利雄博士退官記念論文集』新評論、1970年9月15日

『ゲマインシャフト』[改訂増補]<社会学叢書>恒星社厚生閣、1970年10月10日【1 ゲマインシャフトとゲゼルシャフト—テンニエスの社会学の出発点—、2 ゲマインシャフト論の構造分析、3 ジンメルとテンニエスとの問題的關係、4 オッペンハイマーの社会関係論、5 フィーアカントのゲマインシャフト論における位置、6 フライヤーの社会学体系—そのゲマインシャフトとゲゼルシャフトの概念、7 ケーニッヒのテンニエス批判、8 テンニエスからパーソンズ—ヘーパーソンズの型象変数体系の成立するまで—】[『著作集』2収録]

パーソンズの行為理論—その連続性と変化について—『近代社会と社会学 武田良三博士古稀記念』早稲田大学出版部、1971年3月30日[「パーソンズの社会学における行為理論」と改題『社会学における行為理論』収録]

巻頭に『現代社会学のエッセンス 社会学理論の歴史と展開』[監修]<ペリかん・エッセンス・シリーズ8>ペリかん社、1972年4月15日[改訂版：新明正道・鈴木幸壽監修、ペリかん社、1996年6月30日]

現代社会学理論の動向『現代社会学のエッセンス 社会学理論の歴史と展開』[監修]<ペリかん・エッセンス・シリーズ8>ペリかん社、1972年4月15日[改訂版：新明正道・鈴木幸壽監修、ペリかん社、1996年6月30日]

行為關係の立場について『経済と社会 大道安次郎博士退職記念論文集』ミネルヴァ書房、1972年11月【『社会学における行為理論』「序論」の一部】

*危機のなかの社会学的機能主義『講座現代社会学の可能性』1973年3月[『現代社会学の視角』収録]

序論『社会学思想』[編著]<社会学叢書15>学文社、1973年7月10日

横田憲治宛書簡31通[1923年12月7、27日、1924年3月5、9、18日、5月2日、6月1日、8月16日、10月23日、1925年2月19日、3月11、23日、5月28日、8月22日、10月15、17、23日、11月1、

2、16、18日、12月1日、1926年10月13日、12月24日、1927年2月25日、3月2、9日、9月19日、11月3日、1928年9月17日、1929年1月13日]『伊那自由大学関係書簡(横田家所蔵)』自由大学研究会、1973年9月1日

『政治と社会構造』上・下[監訳書：パーソンズ著 Talcott Parsons, *Politics and social structure*]、誠信書房、1973年9月25日、1974年6月25日[上巻に「監訳者あとがき」、下巻に解説「監訳者の言葉」を収録、「監訳者の言葉」を「パーソンズの政治社会学」と改題『現代社会学の視角』収録]

高橋里美さんの追憶『高橋里美全集 第5巻 月報』福村書店、1973年9月[高橋里美先生を偲ぶ文集刊行会編『高橋里美一人と思想』(日本化研印刷(株)出版部、1979年10月25日)収録]

『社会学における行為理論』<社会学叢書>恒星社厚生閣、1974年8月20日【序論 第1部 発端(1社会学における行為理論の源流、2デュルケムとパレートの社会学における行為理論、3マックス・ウェーバーの社会学における行為理論、4クーリー、ミード、トーマスの社会学における行為理論)、第2部 展開(1現代社会学における行為理論、2マキニョーの社会学における行為理論、3ズナニエツキの社会学における行為理論、4パーソンズの社会学における行為理論、5ホームマンズの社会学における行為理論、6ミルズの社会学における行為理論)】

マンハイムにおける歴史社会学の概念『歴史社会学とその周辺—権俊雄博士古稀記念論文集—』中央大学出版部、1975年3月30日[『現代社会学の視角』収録]

社会学における役割理論の位置『宗教社会学とその周辺 久保田正文博士喜寿記念論文集』久保田正文博士喜寿記念論文集編集委員会編、日新出版、1975年9月30日[『現代社会学の視角』収録]

[1969年1月8日「新人会記念集会」の発言]『東京帝大新人会の記録』石堂清倫・堅山利忠編、経済往来社、1976年6月1日

『新明正道著作集 第二巻 理論Ⅱ』誠信書房、1976年9月10日【社会学の基礎問題、社会本質論】

著作集刊行に際して『新明正道著作集 第二巻 理論Ⅱ 月報1』誠信書房、1976年9月

新人会金沢支部について『資料 第四高等学校学生運動史』総合図書、1976年11月1日

『新明正道著作集 第六巻 知識社会学』誠信書房、1977年1月25日【知識社会学の諸相、イデオロギー論考】

『改版 社会学史概説』<岩波全書>1977年4月14日【1社会学史について、2社会学の近代的起源、3古典的 sociology の成立、4社会学の世界的発展、5現代社会学の動向】[復刊：<岩波全書セレクション>2007年11月22日]

『新明正道著作集 第七巻 政治社会学』誠信書房、1977年7月15日【ファシズムの社会観、ファシズム国家論、ソフィストの政治学的研究】

大熊信行君と私『人間中心の経済観を求めて 大熊信行』創価大学学生自治会経済学部企画、1977年11月5日

『新明正道著作集 第一巻 理論Ⅰ』誠信書房、1978年3月15日【社会学序説、社会学、社会学序講】

現代における社会学の危機『近代社会学の諸相 阿閉吉男教授定年退官記念』御茶の水書房、1978年3月31日[『現代社会学の視角』収録]

『新明正道著作集 第四巻 学史Ⅰ』誠信書房、1979年5月15日【形式社会学論、独逸社会学】

『現代社会学の視角』<社会学叢書>恒星社厚生閣、1979年10月15日【第1部(1現代における社会学の危機、2現代における社会学の学問的位置—社会学の危機とその底流—、3「社会学の社会学」の社会学—日本社会学史学会大会での講演—、4危機のなかの社会学的機能主義—立命館大学産業社会学部学生会での講演—、5社会学における役割理論の位置、6社会学における「日常生活」の概念について—ア

メリカ社会学の場合)、第2部(1 コントの社会学における問題点、2 ジンメル日本の思想への影響、3 クーリーの社会組織の概念について、4 マンハイムにおける歴史社会学の概念、5 イデオロギー概念の歴史の変容、6 第二次大戦後のアメリカ社会学について、7 パーソンズの政治社会学)、第3部(1 建部吾吾博士の片影—明治社会学史の一齣—、2 高田保馬博士と私、3 松本社会学における行為理論、4 長谷川如是閑先生の『現代社会批判』、5 吉野作造先生と大正デモクラシー—古川市主催吉野先生生誕百年記念の会での講演—、6 大熊信行君における国家論の軌跡、7 社会学五十年の回顧—中央大学文学部社会学学科最終講義—、8 総合社会学の構想を中心として—第五十回日本社会学会シンポジウム報告—)

『新明正道著作集 第八巻 民族社会学』誠信書房、1980年8月10日【人種と社会、史的民族理論】

第二次大戦後における高田博士の社会学的業績『高田保馬博士の生涯と学説』創文社、1981年1月25日
蠟山政道君の追憶『追想の蠟山政道』蠟山政道追想集刊行会、1982年5月15日

『タルコット・パーソンズ』恒星社厚生閣、1982年5月25日【1「パーソンズ時代」の遠近像—グールドナーの「パーソンズの構造的機能主義の時代」をめぐって—、2タルコット・パーソンズについて—その学問的業績の全体像—、3パーソンズの社会学の概念について、4パーソンズのデュルケム解釈について—特に彼の行為理論を中心として—、5パーソンズのマックス・ウェーバー解釈について—特に彼の行為理論を中心として—】

『新明正道著作集 第五巻 学史Ⅱ』誠信書房、1983年7月30日【社会学の発端、社会学史、社会学史補論(1 功利主義の近代的系譜、2 コントの社会学体系における矛盾、3 ドイツ社会学と社会科学、4 ルソーと社会学、5「パーソンズ時代」の遠近像、6 日本社会学の過去・現在および未来、7 日本社会学の展開)】

「自由大学を語る」中の談『自由大学運動と現代 自由大学運動六〇周年集会報告集』自由大学研究会編、信州白樺、1983年10月10日

「記念講演会での「あいさつ」」『自由大学運動と現代 自由大学運動六〇周年集会報告集』自由大学研究会編、信州白樺、1983年10月10日

『ワイマール・ドイツの回想』恒星社厚生閣、1984年12月15日【ワイマール・ドイツの回想(1 伯林風見筆、2 ケルン大伽藍の空のもとで(一九二九年十一月十一日から十二月十五日)、3 ベルリン大学内外(一九三〇年一月一日から九月二四日)、4 ドイツ留学中の思い出)、欧州の危機(1『独逸、独逸、万国の下に』—一九二九年十一月十六日、ケルンで—、2 反動の高まる波瀾—一九二九年十二月二十三日、ベルリンで—、3 文化と大学の自由—一九三〇年二月十七日、ベルリンで—、4 ドイツ政治の現段階—一九三〇年十月十五日、ベルリンで—、5 半独裁への転歩—一九三一年八月十日、日本で—、6 レマルク映画の禁止されるまで)、遙かなる追想(1 遙かなる追想—ロシア革命から五十年—、2 平和思想への志向—人道主義と社会主義—、3 社会学五十年の回顧—中央大学文学部社会学学科最終講義—)】

小山君の思い出『小山隆先生を偲んで』小山隆先生追悼集刊行会編・刊、1985年6月1日

『新明正道著作集 第三巻 理論Ⅲ』誠信書房、1992年6月25日【ゲマインシャフト、社会学の立場】

『新明正道著作集 第九巻 群集社会学』誠信書房、1993年6月30日【群集社会学、大衆および公衆の社会学(1 群集時代の克服、2 大衆の分析—集团的構成の諸性格—、3 大衆の研究について、4 マス・ソサィティの考察、5 公衆と大衆、6 大衆社会理論の構造—その支配的傾向—)、階級、社会学の輪郭、付録(日本社会学の過去・現在および未来、ジンメル思想の日本への影響)】

『新明正道著作集 第十巻 地域社会学』誠信書房、1985年5月25日【地域社会学(1 地域社会の概念、2 社会群態の学問、3 コミュニティの問題、4 地域社会の組織化、5 地域社会学の問題点、6 コミュニティ・オーガニゼーションの理論)、都市社会学(1 都市社会学の構造、2 都市と周辺農村との関係、3 市町村合併による地域社会の変貌、4 産業都市の構造分析、5 わが国都市社会学の動向、6 アーバン・リニューアル(都市更新)、7 都市化の理論をめぐって、8 アメリカ都市社会学の問題点、9 都市化理論の現状分析、10 行政都市の社会学的意義、11 社会開発の問題点)、市民意識(1 市民意識の社会学的考察、2 市民社会

の人間観、3文化圏の社会学的考察、4人口問題の下にあるもの】

『ドイツ留学日記』山本鎮雄編、時潮社、1997年4月5日【1 伯林到着まで(一九二九年四月六日ー四月二十五日)、2 伯林日記 第一(一九二九年四月二十五日ー六月二四日)、3 伯林日記 第二(一九二九年六月二五日ー八月三〇日)、4 伯林日記 第三(一九二九年九月一日ー一〇月一〇日)、5 ケルン大伽藍の空のもとで(一九二九年十一月一日から十二月十五日)、6 ベルリン大学内外(一九三〇年一月一日ー九月二四日)、7 ヨーロッパを旅して(一九三一年一月ー三月一日)、8 ヨーロッパを去りつつ(一九三一年三月二十八日ー五月八日)】

吉野作造先生と大正デモクラシー『吉野作造の人間・思想を語る 記念講演会記録』吉野先生を記念する会、1998年12月20日[『現代社会学の視角』収録]

『新明正道時評集』山本鎮雄編、日本経済評論社、2007年1月15日【I 文学・宗教・思想(1 文学青年の思い出、2 宣伝人民の方へ、3 戦争平和其他、4 軍国主義の発達)、II 欧州の危機(1 独逸、独逸、万国の下にー一九二九年十一月十六日、ケルンでー、2 ドイツ総選挙の側面ー一九三〇年九月十日、ベルリンでー、3 ドイツ政治の現段階ー一九三〇年十月十五日、ベルリンで、4 ヨーロッパの危機とその帰結ー一九三〇年十一月十日、ベルリンでー、5 世界危機の転換の中で)、III ナチズムのイデオロギー(1 ドイツファシズムのイデオロギー、2 ヒトラーの政治的性格ー現状勢を背景としてー、3 ヒトラー勝利の意義、4 独逸国民社会主義の国家観念、5 欧州のファッション的提携)、IV 日本ファシズムの分析(1 ファッションに成つたら、2 実際政治におけるファシズム、3 日本に於いてファシズムは何故発展しないか、4 日本ファシズムの道、5 日支事変の教へるもの、6 庶政一新の新色調、7 強力政治の現勢分析)、V 思想的転換の軌跡(1 事変の教訓、2 近衛声明一周年、3 論壇十五年、4 東亜協同体と国民再編成、5 新体制の政治学、6 革新の停滞とその打開、7 米国に与う)、VI 国民性の民主的改造(1 時艱突破の基盤、2 知的観察力をー新政治と学生態度、3 思想界の新しき出発、4 停滞する民主化ー終戦一周年を顧みてー、5 国民性の民主的改造ー日本民主化の究極点ー、6 日本民主主義の歴史的盲点ー明治変革を彩った日本的ナショナリズムとデモクラシーの相克ー)】

2. 論文等(新聞・雑誌掲載)<1276 篇>

1918(大正 7)年

- ある種のマンネリズム[「読者論壇」]『トルストイ研究』3-2、2月1日
[「白雨社短歌会詠草」中の短歌3首]『北国新聞』3月2日
[「四校短歌会詠草」中の短歌3首]『北陸新聞』3月13日
小松五人斬について『北陸新聞』3月24、25、27～28、30、31日、4月1、2、4日<<一生>>
逗留[小説]『北辰会雑誌』81、3月25日
[「白雨社三月詠草」中の短歌5首]『北国新聞』3月30日
残酷性と愛『北陸新聞』5月2～4、7～9、11日<<正道生>>

1919(大正 8)年

- *新人に檄す『北陸毎日新聞』3月13、14日[掲載を確認できない]
軍国主義の虚偽[「自由論壇」]『解放』1-3、8月1日
人民の方へ[「宣伝」]『デモクラシイ』1-6、9月15日[『時評集』収録]
何といふ怯懦だ! [詩]『デモクラシイ』1-7、10月15日<<同人>>
帝国と民主主義ーラツサアフーオドーー『デモクラシイ』1-7、10月15日
戦争平和其他『デモクラシイ』1-8、12月1日[『時評集』収録]
交通労働組合の新生『デモクラシイ』1-8、12月1日<<S生>>

1920(大正 9)年

- 島田清次郎論[「新時代の新人物論」]『解放』2-1、1月1日
先駆者を認めよ／婦人運動の究極／一つの戦争肯定論[「時代批判」]『先駆』1-2、3月1日
「国家社会主義」の批評『先駆』1-3、4月1日
坑夫へ[詩]『先駆』1-3、4月1日
「普通選挙論」吉野作造著『著作評論』1-1、4月1日
中古主義への復帰と其陥穽『先駆』1-4、5月1日
新しき芸術へ『先駆』1-4、5月1日<<白雀生>>
代議政治の価値『先駆』1-5、6月1日<<秋関直二>>
信濃路の春(宣伝旅行記)『先駆』1-5、6月1日<<新明>>[三輪寿壯、門田武雄、小岩井浄、山崎一雄、赤松克麿との分担執筆]
資本家は戦を欲す／小作人運動の方向／軍国と呪はれたる教育／知識階級の態度／尼港事件と出兵の反省[「時代批判」]『先駆』1-6、7月1日

総てか無か『先駆』1-6、7月1日<<石川澤二>>

労働者よ、結束せよ(I・W・Wの歌)／赤旗[詩]『先駆』1-7、8月1日<<秋関直二>>

自分の人生観 武者小路実篤著『著作評論』1-4、7月1日

麵麩の道徳『同胞』1、10月5日<<無署名>>

小作人の立場『同胞』3、12月1日<<無署名>>

冬の夜話『同胞』3、12月1日<<無署名>>

1921(大正10)年

イロハがるたの話『同胞』4、1月1日<<無署名>>

人生は牢獄である『異邦人』<新人会金沢支部>2-1、1月17日

西瓜一つ『同胞』5、2月1日<<無署名>>

組合の価値『同胞』6、3月1日<<MS生>>

社会笑話『同胞』6、3月1日<<無署名>>

ツェトキン女史の露西亜観／チェコ、スロバツクの擾乱／匈牙利白禍の残虐／印度における非協同の氣勢／英露通商協約調印「海外時潮」『社会主義』<日本社会主義同盟機関誌>9-2、4月1日

家庭時代に於けるバクーニン『ナロオド』1、7月1日<<新明生>>

軍国主義の発達『ナロオド』3、9月1日[『時評集』収録]

1922(大正11)年

『ソフィストの政治学的研究』[「新刊書の著者より」]『我等』4-1、1月1日

戦争に関する対話[「神戸付録」]『大阪朝日新聞』1月1、3、4日

ギルド社会主義の近勢『社会思想』1-3、6月1日

新露西亜と解放の教育『表現』2-7、7月1日

人性と恐怖主義『我等』4-7、7月1日

ルソーと現代『週刊朝日』2-1、7月2日

ペトロ・コムナ『社会思想』1-5、8月1日<<無署名>>

社会学派概説『社会思想』1-7、8、10月1日、11月1日

サムナアの社会学に現はれたる政治思想『商光』<関西学院高等学部商科会>1-1、11月1日

1923(大正12)年

総体意志の概念[訳：ギンズバーグ著『社会心理学』(Morris Ginsberg, *The Psychology of Society*)第5章]『我等』5-6~8、6月1日、7月1日、8月1日

政治進化の悲観と楽観『社会思想』2-8、9月1日

社会意識論『商光』＜関西学院高等学部商科会＞2-1、11月1日

1924(大正 13)年

社会構成化論－社会の歴史的類型の考察－『新人』25-3、4、3月1日、5月1日[「社会構成化について」と改題『権力と社会』収録]

権力の社会学的考察『我等』6-2、3月1日

権力の近代的様相『我等』6-3、4月1日

レーニンの国家論紹介『社会思想』3-3、4月15日

シユパンの社会学説[「最新学説の紹介」]『我等』6-4、5月1日

[「与へられたる暑中休暇」]『学院時報』＜関西学院＞11、6月25日

国家の本質に関する典型的な社会学概念[翻訳：Harry Elmer Barnes, *Sociology and political theory* の第3章]『自由論攷』2-7、7月1日

社会学の起源について『我等』6-6、7月1日

夜の影[戯曲]『我等』6-8、9月1日＜那智嶺＞

社会運動の定型『社会思想』3-8、10月1日

群集論における無意識－序論及びル・ボンの所説－『我等』6-9、10月1日

フロイドの群衆心理論『群集心理と自我の分析』『我等』6-10、11月1日

蒼白な情熱家[「高田保馬論」]『改造』6-12、12月1日

純真なる学風の振作『社会学会雑誌』＜関西学院社会学会＞2、12月1日

定型論再説『社会思想』3-10、12月1日

1925(大正 14)年

忘れられた花籠『自由大学雑誌』1-1、1月10日

社会結合の『共同』と『集合』－共同社会と集合社会－『我等』7-3、3月1日

共同社会論『我等』7-4、4月1日

独逸の政党的分野『社会思想』4-5、5月1日＜M・S生＞

[「次期総選挙に於ける無産政党の実勢力と其候補者」]『改造』7-6、6月1日

称名寺住職『クラルテ』1、6月1日

砂糖と白楊『クラルテ』2、7月1日

社会主義の『自由王国』『社会科学』1-2、7月1日

国家主権と社会主権『社会思想』4-7、7月1日

六曜『文化の基礎』5-7、7月1日

夢遊武官『クラルテ』3、8月1日

満洲雑筆『社会思想』4-9、9月1日<<新明生>>

社会学と契約論『文化の基礎』5-9、9月1日

真の友を[「私の切実な問題」]『改造』7-10、10月1日

自然的社会学と文化的社会学『社会科学』1-5、10月1日

社会学と心理学『我等』7-10、10月1日

行為における社会の形式性『社会学雑誌』19、11月1日

社会関係論に就いて『社会政策時報』62、11月1日

オープンハイマーの社会論『我等』7-11、12、11月1日、12月1日[「オープンハイマーの社会関係論」と改題『増補版 ゲマインシャフト』『著作集』3収録]

ジンメル断片(遺稿)[翻訳]『自由大学雑誌』1-10、11、11月10日、12月10日

1926(大正15・昭和元年)

政治行為と政治秩序『社会思想』5-1、1月1日

社会概念の経済的構成『我等』8-1、1月1日

新学説紹介[「新学説の紹介」]『我等』8-1、1月1日

歴史哲学としての社会学『商光』<関西学院高等学部商科会>4-2、3月5日

社会の文化体系における地位『社会政策時報』67、68、4月1日、5月1日

*松島紀行『街道』2、6月[『新明社会学研究』第8号(2003年12月10日)収録]

秘密社会の機能『改造』8-10、9月1日

群集の社会問題『我等』8-9、10、9月1日、10月1日

自由主義の終期[「『新自由主義』批判」]『改造』8-11、10月1日

社会学と唯物史観について『社会科学』2-8、10月1日

*夜の葡萄『街道』4、10月

*夕暮の言葉『火喰鳥』5、11月

本年の社会学界[「本年社会科学の業績と傾向」]『経済往来』1-10、12月1日

1927(昭和2)年

*尾倉義八郎伝『火喰鳥』6、1月[『新明社会学研究』第12号(2008年3月25日)収録]

猿を煮るもの『経済往来』2-1、1月1日

新渡戸稻造論『経済往来』2-4、4月1日<<XYZ>>

ダントン『経済往来』2-4、4月1日

夕雲[詩]『経済往来』2-6、6月1日

社交の階級理論『改造』9-7、7月1日

現代社会学におけるマルクスの根本問題『社会思想』6-7、7月1日<<九谷夏雄>>
社会学的散歩『法律春秋』2-7、7月1日
ヘーゲルの「市民社会」(サンクト・テレク)『我等』9-7、8月1日
文芸時評『経済往来』2-9、9月1日
ジンメルとテンニイスの社会図型論『思想』71、9月1日[「ジンメルとテンニイスとの問題的関連」と改題『ゲマインシャフト』『著作集』3収録]
青野季吉氏[「現時活躍せる論客に対する一人一評録」]『随筆』<人文会出版部>2-10、10月1日
露西亜芸術の現状[翻訳]『社会思想』6-11、11月1日<<九谷夏雄>>
解毒的な消極的な社会思想的原理 協調会訳シュタイン著「社会思想史」を読む『帝国大学新聞』231、232、12月5、12日

1928(昭和3)年

高田保馬教授論『経済往来』3-1、1月1日<<XYZ>>
毛皮頰巻『経済往来』3-1、1月1日
小市民の幸福[「民衆娯楽としてのラヂオ」]『経済往来』3-1、1月1日
徳川時代における社交的典型に就いて『社会政策時報』88、89、1月1日、2月1日
無産階級の文学に対する囑望『新潮』25-1、1月1日
源内の夢想国『法律春秋』3-1、1月1日
人物中心主義の誤謬[「街頭に立つて普選の側面観察」]『河北新報[夕刊]』2月14、15日
学生と選挙運動『改造』10-3、3月1日
社会群態の学問『経済往来』3-3、3月1日[『著作集』10収録]
ダントン『経済往来』2-4、4月1日
マルクスの認識論について『社会思想』7-6、6月1日<<九谷夏雄>>
繁盛記に現れた社会批評『帝国大学新聞』257、6月18日
カフェーの社会的形相[「カフェーと現代生活—その社会的考察と批判—」]『経済往来』3-7、7月1日
空想国物語『文芸春秋』6-7、7月1日[大草實編『読書随筆』(矢の倉書店、1938年)収録]
犯罪の効用[「学界余談」]『東京朝日新聞』7月18~20日
デュルケムの社会学主義『国家学会雑誌』42-9、12、9月1日、12月1日
フォイエルバッハ批判『文芸春秋』6-9、9月1日
モアを中心とした近代空想国『社会思想』7-11、11月1日<<九谷夏雄>>

1929(昭和4)年

一九二八年を考える『経済往来』4-1、1月1日

文学青年の思ひ出[「文学青年時代」]『新潮』26-3、3月1日[『時評集』収録]

方法としての社会学—社会学化の理論の構成—『社会学雑誌』59、3月6日

各人各題漫談会 第六十九回新潮合評会『新潮』26-4、4月1日[出席者：秦豊吉、新居格、堀口九万一、千葉亀雄、大宅壮一、金子洋文、佐藤春夫、三宅やす子、森岩雄、中村武羅夫]

マルクスとヘーゲル—おぼえがき—『理想』9、4月1日

伯林風見筆『新潮』26-9、9月1日「ウキルマアスドルフ」[『ワイマール・ドイツの回想』収録]

テンニイスの社会学における意志論—テンニイス論の一章として—『思想』91、12月1日

1930(昭和5)年

独逸社会運動における一紀元—『労働』と『労働』との決戦『社会思想』9-1、1月1日「九谷夏雄」

独逸、独逸、万国の下に[欧州通信1]『経済往来』5-2、2月1日[『欧州の危機』『ワイマール・ドイツの回想』『時評集』収録]

欧州における反動の波濤[欧州通信2]『経済往来』5-3、3月1日[「反動の高まる波濤」と改題『欧州の危機』『ワイマール・ドイツの回想』収録]

独逸大学の生命[欧州通信3]『経済往来』5-4、4月1日[「文化と大学の自由」と改題『欧州の危機』『ワイマール・ドイツの回想』収録]

海峡の彼方の社会主義[欧州通信4]『経済往来』5-5、5月1日[『欧州の危機』収録]

ヤング案の影に[欧州通信5]『経済往来』5-6、6月1日[『欧州の危機』収録]

第三共和国の新展望[欧州通信6]『経済往来』5-7、7月1日[「フランスの新展望」と改題『欧州の危機』収録]

独裁への進軍[欧州通信7]『経済往来』5-8、8月1日[『欧州の危機』収録]

ラインの解放[欧州通信8]『経済往来』5-9、9月1日[『欧州の危機』収録]

ヨーロッパ合衆国への道[欧州通信9]『経済往来』5-10、10月1日[『欧州の危機』収録]

ドイツ総選挙の側面[欧州通信10]『経済往来』5-12、11月1日[『欧州の危機』『時評集』収録]

独逸政治の現段階[欧州通信11]『経済往来』5-13、12月1日[「ドイツ政治の現段階」と改題『欧州の危機』『ワイマール・ドイツの回想』『時評集』収録]

1931(昭和6)年

ヨーロッパの危機とその帰結[欧州通信12]『経済往来』6-1、1月1日[『欧州の危機』『時評集』収録]

ドイツに於ける財政改革—その社会政策との関連—『社会政策時報』124~126、1月1日、2月1日、3月1日

独逸ファシズムのイデオロギー[「経済・政治・社会時評」]『経済往来』6-7、7月1日[『時評集』収録]

独逸官吏減俸と財政改革案[「時評」]『社会政策時報』130、7月1日

レマルクの映画の禁止されるまで『批判』2-7、7月15日[『ワイマール・ドイツの回想』収録]

鉄兜団オン・パレード[「国際的大事件実話集 独逸」]『経済往来』6-8、8月1日

独逸恐慌を繞る政局『改造』13-9、9月1日

混迷独逸のフラッシュ・バック―その政治情勢について―『経済往来』6-9、9月1日

コントと社会論理学『季刊社会学』2、10月30日[「コントの社会学における問題点」と改題『現代社会学の視角』収録]

欧州案内人物語『経済往来』6-11、11月1日

独逸社会民主党の分裂『批判』2-10、11、11月1日、12月1日

ヘーゲルとプロイセン国家『理想』28、11月1日

Die Gruppe als Soziologisches Prinzip, *Archiv für angewandte Soziologie*. Jg. II, Heft 4

1932(昭和7)年

反動におけるファッシズムへの契機『経済往来』7-1、1月1日[「ファッシズムの歴史的形相」と改題『ファッシズムの社会観』『著作集』7収録]

宗教社会学への契機『読売新聞』2月6、7、9、11、12日

独逸政界の近状 興味深きヒットラーの進出『帝国大学新聞』420、2月22日

*日本に於けるファッショ運動の将来『会議』2-4、4月1日

ソレルとファッシズムとの関連―歴史社会学的考察―『国家学会雑誌』46-4、4月1日[『ファッシズムの社会観』『著作集』7収録]

ファッショに成つたら[「特集日本はどうなる?」]『文芸春秋』10-4、4月1日[『時評集』収録]

ヒットラーの政治的性格―現状勢を背景として―『経済往来』7-5、5月1日[『時評集』収録]

ファッシズムの政治形態『セルパン』15、5月1日

権謀術数のイデオロギー『経済往来』7-7、7月1日

奢侈・戦争・景気『経済往来』7-9、9月1日

軍縮における独逸の新行動『経済往来』7-12、11月1日

『社会政策』の『経済政策』への対峙『社会政策時報』146、11月1日

永遠相下の社会学―批判的断章―『批判』3-11、11月1日

思想的危機における一問題―パレト社会学における歴史的思惟の破壊―『理想』35、11月1日[「パレートの知識社会学」と改題『現代知識社会学論』収録]

ドイツ 独裁の舞台裏『帝国大学新聞』456、11月28日

デュルケムの「社会分業論」[「ブックレビュー」]『読売新聞』11月29日

独逸に来るべき独裁『国際知識』12-12、12月1日

1933(昭和8)年

文化的危機の時流的諸批判[「伸びゆく日本の展望論陣二十人集」]『経済往来』8-1、1月1日

有沢、阿部両君の『世界危機の分析』成功せる共同制作『帝国大学新聞』462、1月16日

二月の論壇『東京朝日新聞』1月31日、2月1～3日【1インフレ時代、2議員同盟の提唱、3国際非常時、4テクノクラシー】

ヒットラア勝利の意義『経済往来』8-3、3月1日[『時評集』収録]

実際政治におけるファッシズム『中央公論』48-3、3月1日[『時評集』収録]

最近における社会学の問題相『公民教育』3-4、4月1日

新進教授物語『中央公論』48-5、5月1日

藤の花『関西学院新聞』88、5月20日

ニイチェ哲学の社会学『国家学会雑誌』47-6、7、6月1日、7月1日[「ニイチェ哲学の社会学的性格」と改題『ファッシズムの社会観』『著作集』7収録]

平野義太郎編『マルクス、エンゲルスにおける史的唯物論と法律』『法学』＜東北帝国大学法学会＞2-6、6月1日

科学の社会思想的制約『社会政策時報』154、7月1日

クラウゼヴィツチを中心に見る戦争万華鏡 理想社編『戦争論』の検討『帝国大学新聞』488、7月3日

イデオロギーの系譜学『改造』15-8、8月1日

ドンクマンの社会学『社会学徒』7-9、9月1日

思想善導の成果「社会思想の批判的研究」[「読書頁」]『東京朝日新聞』9月29日

中世における慈善の観念『社会事業研究』21-11、11月1日

大学における世界観の論議『理想』43、11月1日[「大学と世界観の論議」と改題『文化の課題』収録]

清水幾太郎『社会学批判序説』[「紹介」]『国家学会雑誌』47-12、12月1日

エヴァアラド[「Poets Essayists Novelists」]『作品』4-12、12月1日

パレト社会学の選良循環説『セルバン』34、12月1日

ファッシズムの世界観『社会学』1、12月25日

1934(昭和9)年

ドイツ国民革命の理論闘争[「時論」]『国家学会雑誌』48-1、1月1日

協同体国家の観念及び機構『法学』＜東北帝国大学法学会＞3-1、2、1月1日、2月1日[「ファッシズムの協同体国家の観念」と改題『ファッシズムの社会観』『著作集』7収録]

イタリー協同体国家批判『経済情報』9-2、1月15日

政党の意義として[「今議会に政党は何を為す可きか」]『実業之世界』31-2、2月1日

師の影を踏むもの『中央公論』49-2、2月1日

ファッシズムの『無理論』『批判』5-2、2月11日

吉野先生一演説会の思ひ出—『随筆雑誌文体』2-3、3月1日[『文体 随筆集』第2巻上(文体社、1934年)収録]

国民革命途上のドイツ社会学『法律時報』6-3、3月1日

独逸国民社会主義の国家観念『外交時報』704、4月1日[『時評集』収録]
 サン・スーシ公園[「Poets Essayists Novelistes」]『作品』5-5、5月1日
 方法論より内容的研究へ 社会学第九回大会印象[「時評」]『帝国大学新聞』529、5月21日
 ドイツを繞る内外の危機[「岐路に立つ世界の情勢」]『経済往来』9-6、6月1日
 社会理論家としての杏村『セルパン』<土田杏村追悼号>40、6月1日[『近代作家追悼文集成23』(ゆまに書房、1992年)収録]
 日本に於いてファシズムは何故発展しないか『中央公論』49-6、6月1日[『時評集』収録]
 各国ファシズム展望『帝国大学新聞』534、6月25日
 独逸国民革命の政治的経済的均制『外交時報』710、7月1日
 超人と永劫回帰の社会学的解釈『文化』1-7~9、7月1日、8月1日、9月1日[「ニーチェにおける超人と永劫回帰の思想の社会学的解釈」と改題『ファシズムの社会観』『著作集』7収録]
 欧州のファッションの提携『経済往来』9-8、8月1日[『時評集』収録]
 父と子『文芸春秋』12-9、9月1日
 ファシズムと資本主義『朝鮮及満州』322、9月5日
 高田保馬・小泉信三論『経済往来』9-10、10月1日<<XYZ>>
 児童と群集心理『児童』1-5、10月1日
 クーデーター物語『中央公論』49-11、10月1日
 故ドルフース首相『外交時報』717、10月15日
 今日における大衆と大衆作家『帝国大学新聞』546、10月22日
 美濃部達吉・佐々木惣一論『経済往来』9-11、11月1日<<XYZ>>
 十一月の論壇『東京朝日新聞』11月2~5日【1 軍部国策の批判、2 財政整調と外交への期待、3 民衆の生活記録 政治家評伝を散読す、4 知識階級の動向 大森・青野氏の観察】[11月5日付に訂正記事掲載] [『新聞集成昭和編年史 昭和九年度版』(大正昭和新聞研究会、1965年)収録]
 『自殺の社会学的研究』[「読書頁」]『東京朝日新聞』11月9日
 河合栄治郎論『経済往来』9-12、12月1日<<XYZ>>

1935(昭和10)年

土方成美論『経済往来』10-1、1月1日<<XYZ>>
 『地下室の人間』の批評—シエストフのこと—『作品』6-1、1月1日[「『地下室の人間』—シエストフのこと—」と改題『文化の課題』収録]
 東北凶作への諸対策について『社会事業研究』23-1、1月1日
 政党不信の社会学的根拠『政界往来』6-1、1月1日
 小泉信三・高田保馬論『理想』52、1月1日
 文学と文学批評の社会性[「学芸」]『大阪朝日新聞』1月18、19、22日【1 文壇外の批判、2 文壇を超えて、

3 思想の克服】

- 国民的性格とファッシズム『行動』3-2、2月1日
- コント雑感『関西学院新聞』109、2月20日
- 知識階級の問題『経済往来』10-3、3月1日
- 国民主義の歴史像『理想』53、3月1日
- フランス知識階級の動向[「世界の知識階級はどこへ」]『読売新聞』3月15~17日
- 社会教育の若干問題『教育心理』2-1・2・3、3月28日[『文献選集教育と保護の心理学 専門雑誌・研究紀要 第2巻』(クレス出版、1998年)収録]
- 理論の反省と疎外[「文芸時評」]『作品』6-4、4月1日
- 日支外交の新姿勢『セルパン』50、4月1日
- ファッシズムの社会観『文化』2-4、6、4月1日、6月1日[「ファッシズムの社会観」と改題『ファッシズムの社会観』『著作集』7収録]
- 社会科学十年史[「付録 日本十年史・十年後」]『経済往来』10-5、5月1日
- 憲政の過去と現在『セルパン』51、5月1日
- 選良循環論 パレートの社会学[「学芸 新学説縮写」]『大阪朝日新聞』5月22日
- イタリー・ファッシズム国家観念の諸相『外交時報』732、6月1日[「ファッシズムの国家観念」と改題、一部を『ファッシズムの社会観』『著作集』7収録]
- 内閣審議会の行方[「文化時評」]『セルパン』52、6月1日
- 独逸の国民社会学 ナチス指導者の精神[「学芸 新説縮写」]『大阪朝日新聞』6月11日
- 社会群態学 都市及び農村社会学[「学芸 新説縮写」]『大阪朝日新聞』6月13日
- パレートの選良循環論について『国家学会雑誌』49-7、8、7月1日、8月1日[『ファッシズムの社会観』『著作集』7収録]
- 感覚と復讐[「文芸時評」]『作品』6-7、7月1日
- 日本社会の特徴—国民的性格の再認識—[「時論」]『サラリーマン』8-7、7月1日[「国民的性格論」と改題『文化の課題』収録]
- ラジオ批判の考察『放送』5-7、7月15日[『文化の課題』収録]
- 暴力の倫理性『中央公論』50-8、8月1日
- 向坂逸郎氏の「知識階級論」を中心に[「良師として親友として我等何を読むべきか」]『京都帝国大学新聞』227、8月6日
- 議会主義と合理主義『日本評論』10-10、10月1日[『文化の課題』収録]
- 本田喜代治氏著『コント研究』[「書評」]『帝国大学新聞』599、11月18日
- ファイナー『ムッソリーニのイタリー』一九三五年[「紹介」]『国家学会雑誌』49-12、12月1日
- 『総社会学』の諸問題『文化』2-12、12月1日[「総社会学の諸問題」と改題『社会学の立場』『総合社会学の構想』『著作集』3収録]
- ゲマインシャフト及びゲゼルシャフトの範疇についての検討[「日本社会学会第十回大会研究報告」]『社会

学』3、12月25日

1936(昭和11)年

イタリーのファシズム運動の社会学『外交時報』746、1月1日[「イタリーのファシズム運動」と改題
『ファシズムの社会観』『著作集』7収録]

哲学的社会観 社会学史的研究の進展[「回顧と展望 社会科学 社会・哲学」]『帝国大学新聞』606、1月1日
国民文化と放送の^{イニシアティブ}首導性『放送』6-1、1月15日[「ラヂオの文化的指導性」と改題『文化の課題』収録]

総選挙・政党・国民『産業と教育』3-2、2月1日

現政局と肅正選挙[「非常時総選挙の意義」]『政界往来』7-2、2月1日

父親教育[「河北春秋」]『河北新報[夕刊]』2月13日

社会事業の原理的認識『社会事業』19-11、2月15日

政党、官僚及び国民の政治[「軍部か官僚か政党か」]『日本評論』11-3、3月1日

哲学的社会学—社会学史的研究の進展『文検世界』22-4、3月1日

現代作家の社会意識『中央公論』51-4、4月1日[『文化の課題』収録]

自由主義と社会主義との相協と相克『日本評論』11-4、4月1日

我が知識人の横顔『神戸商大新聞』71、4月20日[「知識人の横顔」と改題『文化の課題』収録]

*举国主義と政党主義『皇道』4月

芸と頭[「河北春秋」]『河北新報[夕刊]』5月27日

日本主義における社会的認識[「日本主義か社会主義か」]『日本評論』11-6、6月1日

『猿と人間と社会』林要氏の基礎工事[「書評」]『帝国大学新聞』633、6月29日

今議会に現れた国軍の動向『中央公論』51-7、7月1日

人力車文明[「河北春秋」]『河北新報[夕刊]』7月21日

魚釣[「河北春秋」]『河北新報[夕刊]』8月26日

*南欧の動乱『美以都』3-9、9月<大阪大学附属図書館所蔵>

満州問題の再認識『改造』18-10、10月1日

近代自然法における社会学『国家学会雑誌』50-10~12、10月1日、11月1日、12月1日[加筆して『社会学の発端』収録]

断種法不可なし[「断種法判定に対する賛否」]『社会事業研究』24-10、10月1日

国策の基礎的イデオロギー『政界往来』7-10、10月1日

ゲマインシャフトとゲゼルシャフト—テンイース社会学の出発点—『文化』3-10、10月1日[『ゲマインシャフト』『著作集』3収録]

自由主義の将来[「特集現代自由主義論」]『理想』67、10月1日[『文化の課題』収録]

日本ファシズムの道『帝国大学新聞』641、10月5日[『時評集』収録]

慰安放送の娯楽性と倫理性[「慰安放送の根本問題」]『放送』6-10、10月5日[「ラジオの娯楽性と倫理性」と改題]『文化の課題』収録]

河合栄治郎氏著『社会思想家評伝』[「読書頁」]『東京朝日新聞』10月12日

秋風に語る[「河北春秋」]『河北新報[夕刊]』11月26日

*満州印象記『東北帝国大学新聞』1、10月26日

*満州旅行談『仙台青年』11月[『新明社会学研究』第5号(1995年9月20日)収録]

政党的議会と国民的言論[「議会否認か議会主義か」]『日本評論』11-12、12月1日

日本ファシズムの展望『染織之流行』18-12、12月1日

1937(昭和12)年

和辻氏の『人間の学』について『饗宴』4、1月1日

都市社会学の構造に就て『社会事業研究』25-1、1月1日[「都市社会学の構造」と改題]『著作集』10収録]

近い明日への観測[「共産主義かファシズムか」]『日本評論』12-1、1月1日

師の面影『宮城教育』451、1月1日

防共協定の渦紋—帝国にとつての処女コース—『福岡日日新聞』1月4日

近代種族理論の検討『外交時報』771、1月15日[「近代種族理論」と改題]『文化の課題』収録]

文壇の新底流への批判[「学芸」]『大阪朝日新聞』1月28日、2月2、3日【1 文学と伝統性、2 抽象性に陥没、3 問題を回避する横光氏の知性】[「知性への不信」と改題]『文化の課題』収録]

[「婦人公民権は時機到来か」]『女性展望』11-2、2月1日

国民社会主義の思想的基礎—その種族哲学の意義—『理想』71、3月1日

日本ファシズムの進向 庶政一新の新色調[「日本ファシズムの行進」]『日本評論』12-3、3月1日[『時評集』収録]

フランス[「噴火山上における世界文化の地位」]『読売新聞』4月13~15日[「戦後のフランス思想家」と改題]『文化の課題』収録]

国民生活安定の行衛 革新的勢力と「庶政一新」の帰結『帝国大学新聞』664、3月15日

政治と道徳『早稲田大学新聞』69、4月28日

強力政治の現勢分析『改造』19-5、5月1日[『時評集』収録]

社会雑記帳[「時事随筆」]『作品』8-5、5月1日

現代の大学生『セルバン』76、5月1日

学生に与へる手紙『中央公論』52-5、5月1日

日本文化と世界文化『歴史公論』6-5、5月1日[『文化の課題』収録]

歴史と伝統[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』5月14日

騎士と魔物と[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』5月21日

中央公論(六月号)[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』5月28日

映画の文化的役割『日本映画』2-6、6月1日[『文化の課題』収録]
ゲマインシャフト論の構造分析ーテンニース社会学の基点としてー『文化』4-6～8、6月1日、7月1日、
8月1日[『ゲマインシャフト』『著作集』3収録]
大学と時局『関西学院新聞』133、6月20日
日本文化現状の批判[「葉書評論」]『神戸商大新聞』85、7月10日
南方政策の基調『外交時報』786、9月1日
曇った人間の顔『セルパン』80、9月1日
思想動員の本質認識[「時局と思想動員」]『日本評論』12-10、9月1日[「思想動員の要諦」と改題『思想へ
の欲求』収録]
芥川賞のことなど[「局外者の文芸界批判」]『新潮』34-10、10月1日
新聞への批判[「事変と知識階級の環境」]『セルパン』82、11月1日
進歩的學生『文芸春秋』15-14、11月1日
現代學生論[「文芸」]『都新聞』11月24～27日[「学生の無性格」と改題『文化の課題』収録]
ラヂオ時評[「時事隨筆」]『作品』8-12、12月1日
家族制度の将来と兒童の位置『兒童』6-12、12月1日
自由人の気魄[「ジイドの立場」]『セルパン』83、12月1日
大本營設置を繞つてー行政改革現過程の問題ー『日本評論』12-13、12月1日
ムッソリーニとヒットラーの出現ーこれを促がした伊獨の社会的諸条件ー『文芸春秋』15-17<事変・第
5増刊>、12月15日
大國の幸福[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』12月25日

1938(昭和13)年

イタリーの時局教育[「海外諸國の時局教育」]『教育』6-1、1月1日[『文化の課題』収録]
政治と宣伝『政界往来』9-1、1月1日
學生は髪を切るべきか『中央公論』53-1、1月1日[『文化の課題』収録]
文化事業の國家的機能性『放送』8-1、1月15日
『大地』の示唆[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』1月18日
歴史と伝統『京都帝國大學新聞』274、1月20日[『文化の課題』収録]
現代文化の反省『關西大學新聞』78、1月22日
ゴルキー『月刊ロシヤ』4-2、2月1日
綜合雜誌の進路[「轉換期の思想的進路」]『セルパン』85、2月1日
思想統制の問題[「思想統制の問題」]『日本評論』13-3、2月1日[『思想への欲求』収録]
國際主義と平和『理想』81、2月1日

〔戦争と思想問題〕『セルパン』86、3月1日
輿論の再吟味『中央公論』53-3、3月1日
国家総動員法案の論点〔革新途上の日本〕『日本評論』13-4、3月1日
戦争の社会進化における役割『文芸春秋』16-4、3月1日
統一ある啓蒙書 蟬山教授著『現代社会思想講話』〔書評〕『帝国大学新聞』711、3月14日
〔読書評論「名著研究文庫」を検討す 諸家の回答〕『日本読書新聞』38、3月14日
安部氏の遭難〔文化時評〕『日本読書新聞』39、3月25日
科学と社会『科学主義工業』1-11、4月1日〔科学と道徳〕と改題『思想への欲求』収録
大学は何処へ行く〔大学はどこへ行く〕『日本評論』13-5、4月1日
種族の問題〔日本社会学会第十二回大会研究報告アブストラクト〕『社会学』5、4月30日
リットの時代精神論〔海外社会学近況〕『社会学』5、4月30日
創造的知性『真理』4-5、5月1日
二十世紀の社会学『知性』1-1、5月1日
日本主義の創造的契機〔革新原理としての日本主義〕『日本評論』13-6、5月1日〔『思想への欲求』収録〕
権威『中央公論』53-6、6月1日
〔新刊良書クラブに就て〕『日本学芸新聞』55、6月1日
行為関連の立場—総合社会概念の構成—『文化』5-6~8、6月1日、7月1日、8月1日〔『社会学の基礎
問題』著作集〕2収録
三角定規—読書余録—『東京堂月報』25-6、6月15日
航研機と映画〔溶明溶暗〕『日本映画』3-7、7月1日
〔“新刊の良書クラブ”に就て〕『日本学芸新聞』56、7月1日
新設政府機関の機構と人物『セルパン』90、7月1日
二十世紀の政治『日本評論』13-8、7月1日〔『思想への欲求』収録〕
荒木大将文相となる—社会時評—『文芸春秋』16-11、7月1日
電話番号〔銃眼〕『文芸春秋』16-12<現地報告時局増刊10>、7月10日
単純生活〔槍騎兵〕『東京朝日新聞』7月17日
学生警官〔槍騎兵〕『東京朝日新聞』7月23日〔『廓清』28-8、8月10日に転載〕
青年層のために 輪読会の仕方『大阪朝日新聞』7月25日
統制の統制〔随想〕『国民新聞』7月27日
外国の日本を見る眼〔氣流塔〕『世界週刊』1-12、7月30日
進歩と進化『知性』1-4、8月1日
加田哲二氏著『日本国家主義の発展』〔読書〕『東京朝日新聞』8月1日
国民生活の安定策—社会時評—『文芸春秋』16-13、8月1日

花火[「随筆」]『モダン日本』9-9、8月1日
時代精神の考察『歴史公論』7-8、8月1日
人類社会の現実と理想『外交時報』810、9月1日
映画の進化『キネマ旬報』656、9月1日
知的動員の問題[「精神総動員の再出発」]『日本評論』13-10、9月1日
出直すべし・国民精神総動員[「戦時国内問題の徹底的解決」]『文芸春秋』16-16<現地報告時局増刊12>、
9月10日
時局と総合雑誌『東京堂月報』25-9、9月15日
行政機構改革問題の再検討『早稲田大学新聞』116、9月28日
道具の社会的理念『科学主義工業』2-5、10月1日[『思想への欲求』収録]
沈黙の人『科学知識』18-10、10月1日
新時代に生きる女性へ贈る言葉『婦人公論』23-10、10月1日[「新時代に生きる女性へ」と改題『思想へ
の欲求』収録]
民衆の知的進取性—政治の目指すべきところ[「時評」]『京都帝国大学新聞』285、10月5日
日本人の分析 林語堂はこれをどう分析したか『読売新聞[夕刊]』10月20、21、23日[『思想への欲求』収
録]
西洋文明と東洋文明[「文明の前途」]『セルパン』94、11月1日
支那と文化日本『帝国大学新聞』739、11月7日[『思想への欲求』収録]
協同の社会学『産業組合』398、12月1日[本位田祥男・東畑精一・川野重任監『協同組合の名著 第十卷
諸家論文集』(家の光協会、1971年8月15日)収録]
知性人『知性』1-8、12月1日
映画風俗時評—日本映画の風俗問題—『日本映画』3-12、12月1日
ペン部隊『理想』91、12月1日
スローガン[「立言」]『国民新聞[夕刊]』12月17日

1939(昭和14)年

唯物史観と正統社会学『科学知識』19-1、1月1日
[「語学教育を如何に時局に対処せしむべきか」]『ザ・カレント・オヴ・ザ・ワールド』16-1、1月1日
*日支提携と日本文化『敬慎』13-1、1月1日<国立中央図書館台湾分館>
[「対ソ寸感集—ハガキ回答—」]『月刊ロシヤ』5-1、1月1日
学園内外—断想—[「新春炉辺閑談」]『政界往来』10-1、1月1日
学生に与ふ『大陸』2-1、1月1日
体系的な試みへの途 松本潤一郎教授の三部作[「学界の回顧と展望 社会学」]『九州帝国大学新聞』192、1月
5日

〔「諸家回答 一、昨年中にお読みになつた本で感銘されたものは、二、その理由は？ 三、読まうと思ひながらお読みになれなかつた本？」〕『日本読書新聞』69、1月5日

国民再組織将来の問題『九州日日新聞』1月7日〔「国民再組織の将来」と改題『政治の理論』収録〕

*戦争俳句其他『戦艦』6-1、1月

海国兵談『改造』21-2、2月1日

議会と国民再組織『日本評論』14-2、2月1日

明治時代を築いた知識『セルバン』98、3月1日

学者的に善処を〔「帝大問題」総批判〕『文芸春秋』17-5、3月1日〔『「文芸春秋」にみる昭和史 第一巻』(文芸春秋、1987年)収録〕

産業発展の要素〔「科学と技術」〕『帝国大学新聞』756、3月6日〔『思想への欲求』収録〕

試験地獄論『中外商業新報』3月9～11日〔『思想への欲求』収録〕

山鹿素行と徳川幕府『科学知識』19-4、4月1日

学問の自主性と政治『知性』2-4、4月1日〔『思想への欲求』収録〕

上海文化戦線を視て『東京朝日新聞』5月2～4日

〔「最近読んだ良書」〕『日本学芸新聞』66、5月5日

楓橋の上に立つて—中支見聞記の一部—『文芸春秋』17-10<現地報告時局増刊20>、5月10日

〔「近代女性のよいこと悪いこと」〕『真理』5-6、6月1日

再出発後の精神動員『日本評論』14-6、6月1日

女性と読書について『婦人公論』24-6、6月1日〔古谷綱武編『生活文化の方向』(名取書店、1940年9月17日)、『思想への欲求』収録〕

社会学的認識の要請『文化』6-6、6月1日〔『社会学の立場』『総合社会学の構想』『著作集』3収録〕

東亜的国民の啓蒙—協同体建設の課題—『関西学院新聞』154、6月20日〔『東亜協同体の理想』収録〕

東亜協同体論の根拠—超国民社会の秩序の認識に対する国民的昂揚の必要性—『早稲田大学新聞』143、6月21日

読まない批評〔「大衆文学」〕『作品』10-7、7月1日

国民社会の新組織問題〔「国内制度改革問題」〕『経済情報 政経篇』14-18、7月10日〔大幅に加筆して「国民社会新組織の問題」と改題『東亜協同体の理想』収録、ほぼ初出のまま「国民再組織の問題」と改題『政治の理論』収録〕

上海租界の運命『文芸春秋』17-14<現地報告時局増刊22>、7月10日

〔「吾国広告放送の是非」〕『三田広告研究』26、7月10日

〔「思索の頁」〕『三田新聞』418、7月10日

新東亜社会建設への責務『外交時報』831、7月15日〔『東亜協同体の理想』収録〕

東亜協同体論の動向〔「東亜協同体の建設」〕『国民新聞』7月19～22、24日〔大幅に加筆して『東亜協同体の理想』収録〕

協同主義の現代日本における役割『改造』21-8、8月1日〔「東亜協同体と協同主義」と改題『東亜協同体の理想』収録〕

理想』収録]

[「イギリスの審判」]『大陸』2-8、8月1日

東亜協同体と民族問題『東亜解放』1-1、8月1日[「東亜協同体と民族主義」と改題『東亜協同体の理想』収録]

事変の教訓『日本評論』14-8、8月1日[「日支事変の教へるもの」と改題『東亜協同体の理想』、初出表題で同書から『時評集』収録]

東亜協同体と新文化の創造『文芸春秋』17-15、8月1日[大幅に加筆して「東亜新文化の基礎的方向」と改題『東亜協同体の理想』収録]

ジャーナリズムの本質と其発展『放送』9-8、8月15日[冒頭の一節「ジャーナリズムとは何か」を削除、「ジャーナリズムの変貌」と改題『思想への欲求』収録]

反英運動の教訓『政界往来』10-9、9月1日

イデオロギー[「録音盤」]『読売新聞』9月13日

週刊雑誌論『東京堂月報』26-9、9月15日

*東亜協同体論の根拠『敬慎』13-10、10月1日<国立中央図書館台湾分館>

支那婦人と尽忠報国[「随想」]『週刊朝日』36-16、10月1日

国内体制を一新せよ[「第二次大戦と日本の地位」]『セルパン』105、10月1日

[「良書推薦」]『日本学芸新聞』59、10月1日

ナチズム批判—アリア人種主義の問題—『日本評論』14-10、10月1日[「人種主義について」と改題『民族社会学の構想』収録]

国民の政治への信頼『日本学芸新聞』73、10月5日

大戦の予言[「銃眼」]『文芸春秋』17-20<現地報告時局増刊25>、10月10日

我々自身の問題 大泉行雄氏著『独逸及び独逸人の問題』の示唆[「書評」]『帝国大学新聞』783、10月23日

盲目的な論議[「爆裂缶」]『科学主義工業』3-6、11月1日

アリア人種優越論『科学知識』19-11、11月1日

*今後の対独外交を如何に展開すべきか『今日の問題』[50、11月1日]

イデオロギーの頽廃『知性』2-11、11月1日[『思想への欲求』収録]

東亜共同体論の根拠『朝鮮公論』27-11、11月1日

近思録『図書』46、11月5日

「新独逸国家体系」第一巻政治篇(1)[「読書」]『東京朝日新聞』11月19日

『死』読後感[ポール・プールの「広瀬哲士訳」]『死』(東京堂刊)広告中の推薦文『帝国大学新聞』787、11月20日

最近の“読書”の感想『日本学芸新聞』75、11月25日

三民主義批判『国民新聞』11月28~30日、12月1日【1 東亜的協同の基礎としての三民主義、2 民主主義・社会主義の綜合者孫文、3 民族民生に対する批判、4 民族解放の現代的意義】[『新東亜の展望』(国民新聞社、1940年3月25日)収録]

社会的理性の要求—優生学の価値について—『形成』1、12月1日
無邪気な小林秀雄[「第八感」]『東京日日新聞』12月1日
学生の映画批評[「学生と映画(教授が語る)」]『日本映画』4-12、12月1日
共産主義の転落『日本評論』14-12、12月1日[『政治の理論』収録]
新日本の理想『紀元二千六百年』2-13、12月11日
社会学界を飾る著書[「学界の回顧と展望 社会学」]『京都帝国大学新聞』307、12月20日
三民主義の新時代的意義『世界週刊』3-1、12月23日[『政治の理論』収録]
翻訳と原書[「近思片々」]『日本読書新聞』104、12月25日

1940(昭和15)年

国際時局と文化の動向『外交』425、1月1日
欧州連邦と東亜連邦—東亜協同体論のために—『外交時報』842、1月1日[「東亜新秩序の歴史的意義」と改題『政治の理論』収録]
近衛声明一周年『改造』22-1、1月1日[『政治の理論』『時評集』収録]
機械と手『科学主義工業』4-1、1月1日[『思想への欲求』収録]
[「興亜の大業と語学者の使命」]『ザ・カレント・オブ・ザ・ワールド』17-1、1月1日
[「戦時第四年の農政を諸家に聴く」]『島根県農会報』504、1月1日
吹田順助氏へ『図書』48、1月5日
東亜新秩序への道『三田新聞』426、1月1日
ドイツ人のデモクラシー観『理想』104、1月1日
思想確立への要望『都新聞』1月2、4日【(上)指導的役割 政治行動に先行せよ、(下)建設の自主性 積極な意図が必要】
求められる調和[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』1月17日
*三民主義の新時代的意義『世界週刊』3-?、1月[『政治の理論』収録]
[「私の愛蔵書」]『書齋』4-2、2月1日
学生辻談義[「時局青春読本」]『大洋』2-2、2月1日
[「二千六百年元旦の記」]『大洋』2-2、2月1日
学者と娯楽[「隨筆」]『モダン日本』11-2、2月1日
東洋文化の社会的存在[「文責在記者」]『日本学芸新聞』80、2月25日
政治超越の気風『政界往来』11-3、3月1日
統制経済の現実的形態—その欠陥はだれの責任であるか—『世界週刊』3-8、3月2日
独逸は変貌するか『経済情報政経篇』15-4、3月10日[『政治の理論』収録]
科学大衆化に就ての一考察—読書による科学教育の問題—『科学ペン』5-4、4月1日[「科学大衆化について

て」と改題『思想への欲求』収録]

サラセン文化の社会学『新亜細亜』13-4、4月1日[『西南亜細亜の歴史と文化』<新亜細亜叢書5>(大和書店、1943年3月20日)収録]

論壇十五年[「十五年史論」]『日本評論』15-4、4月1日[「思想的転換の動向」と改題『思想への欲求』、初出原題で『時評集』収録]

超克さるべき現政局[「時評」]『エコノミスト』18-12、4月15日[『政治の理論』収録]

神経戦争[「随筆・随評」]『国際知識及評論』20-5、5月1日

東亜新秩序の反共性『東亜解放』2-5、5月1日[「東亜新秩序の反共的性格」と改題『政治の理論』収録]

床中読書『東京堂月報』27-5、5月15日

産業報国連盟批判『公論』3-6、6月1日

東亜協同体と国民再編成『大陸』3-6、6月1日[『政治の理論』『時評集』収録]

東亜連盟論の理論的検討『東亜解放』2-6、6月1日[『政治の理論』収録]

都市社会学の方法論的考察『都市問題』30-6、6月1日[「都市社会学の方法論」と改題『民族社会学の構想』収録]

新党運動の根底にあるもの『日本評論』15-6、6月1日[『政治の理論』収録]

アメリカの社会機構『理想』109、6月1日[「アメリカの社会的動向」と改題『政治の理論』収録]

興亜週評『週刊朝日』37-24、6月2日

政治革命と精神革命『世界週刊』3-21、6月1日[「東亜新秩序建設の目的」と改題『政治の理論』収録]

興亜週評『週刊朝日』37-25、6月9日

最近論壇の動き 各評論家の姿態の変化について『日本学芸新聞』87、6月10日

興亜週評『週刊朝日』37-27、6月16日

単一政党運動批判[「論説及時評」]『エコノミスト』18-21、6月17日[『政治の理論』収録]

興亜週評『週刊朝日』37-28、6月23日

興亜週評『週刊朝日』37-29、6月30日

日本人の気持『科学知識』20-7、7月1日[『思想への欲求』収録]

欧州戦争の教訓『政界往来』11-7、7月1日

[「現下日本ジャーナリズム批判」]『大陸』3-7、7月1日

不介入政策の限界[「文化評論」]『帝国大学新聞』818、7月1日

思想への欲求『日本評論』15-7、7月1日[池島信重編『時代の条件』(名取書店、1940年9月17日)、『思想への欲求』収録]

新東亜建設政策の全体的統合『蒙古』7-7(通巻98)、7月1日[「新東亜建設政策の全体的統合へ」と改題『政治の理論』収録]

新党への立場『京都帝国大学新聞』316、7月5日

世界新秩序と文化の将来『外交』451、7月8日

コミュニティーの問題『社会事業研究』28-8、8月1日
 世界政策構成の諸要素『東亜連盟』2-8、8月1日[『政治の理論』収録]
 [「新体制への要望」]『日本評論』15-8、8月1日
 原作も問題だ[「『木石』の問題に就いて ハガキ回答」]『日本学芸新聞』92、8月25日
 全体主義の研究書[「入門書」講座12 社会学]『日本読書新聞』129、8月25日
 独逸と世界新秩序—東亜新秩序との関連性について—『外交時報』858、9月1日[『政治の理論』収録]
 転換期政局の基調『商工経済』10-3、9月1日[『政治の理論』収録]
 文学的雑感『新潮』37-9、9月1日[「ある作家への期待」と改題『思想への欲求』収録]
 近衛内閣、政党、新党[「新秩序における生活と文化」]『セルバン』116、9月1日
 新体制の政治学『日本評論』15-9、9月1日[『政治の理論』『時評集』収録]
 町会と隣組[「隣組への建言と批判」]『文芸春秋』18-12、9月1日
 杓子定規[「随筆」]『モダン日本』11-10、9月1日
 新体制下の出版ジャーナリズム『日本学芸新聞』93、9月10日
 新体制と個性の問題『東京朝日新聞』9月20～22日[「新体制と個性」と改題『思想への欲求』収録]
 新体制と国民組織『蒙古』7-10(通巻101)、10月1日[『政治の理論』収録]
 指導者原理とは何か[「特輯指導者原理とは何か」]『日本読書新聞』135、10月25日
 新体制と文化創造『国民学校』1-8、11月1日
 東亜理論と新体制[「火焰道場」]『東亜解放』2-11、11月1日
 日本社会科学の方向[「全日本科学運動」]『日本評論』15-11、11月1日[「現時の日本社会科学」と改題『思想への欲求』収録]
 青年論 姑息政策の反省『帝国大学新聞』830、11月4日[「青年政策の反省」と改題『思想への欲求』収録]
 国民文化振興と放送『放送』10-11、11月15日[「放送と国民文化」と改題『思想への欲求』収録]
 大政翼賛会の本質[「論説及時評」]『エコノミスト』18-43、11月18日[『政治の理論』収録]
 学生政策論『東京日日新聞』11月25～27日[『思想への欲求』収録]
 [「創刊五周年に寄す」]『日本学芸新聞』98、11月25日
 *新体制と個性の問題『修身教育』108、11月
 革新と前進『アトリエ』17-14、12月1日[「美術家の進路」と改題『思想への欲求』収録。初出を『戦争美術の証言 上』<美術批評家著作選集 第20巻>(ゆまに書房、2017年)収録]
 書齋の中心『書齋』4-12、12月1日[『書齋と読書』(三省堂、1941年10月10日)収録]
 青年の奮起と政治参加『大陸』3-12、12月1日[「青年と新体制」と改題『思想への欲求』収録]
 新体制の組織と人『東亜連盟』2-12、12月1日[「大政翼賛会の出発」と改題『政治の理論』収録]
 “歴史における理念” “技術家評伝” [「建設・評壇(最近の良書)」]『東京朝日新聞』12月3日
 科学的精神と全体主義 フィレンツエ史[「建設・評壇(最近の良書)」]『東京朝日新聞』12月4日

1941(昭和16)年

- 社会問題消滅せず国家の優位は政治的統制[「二千六百一年の出發 社会」『福岡日日新聞』1月5日
二千六百一年の發足 社会篇『河北新報』1月6日
大政翼賛会の進路 強度の政治力結集の他なし『帝国大学新聞』839、1月13日[『政治の理論』収録]
新東亜建設戦の現段階『外交時報』867、1月15日[『政治の理論』収録]
大政翼賛会の性格に就て『三田新聞』451、1月15日[「大政翼賛会の性格について」と改題『政治の理論』
収録]
東亜建設運動の統一について[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』1月21日
和平支那の文化的胎動『科学主義工業』5-2、2月1日
新体制下の社会相『世界週刊』4-5、2月1日
台湾と東亜共栄圏『台湾地方行政』7-2、2月1日
莫愁湖小学校長『東亜解放』3-2、2月1日
[「家長選挙」の是非]『日本評論』16-2、2月1日
アメリカ社会機構批判[「アメリカの解剖」]『セルパン』122、3月1日
アメリカの性格『日本学芸新聞』103、2月25日
アジア民族政策論『大陸』4-3、3月1日[『政治の理論』収録、中国語訳：亜洲民族政策論『大東亜共栄
圏的建設』<訳叢叢書3>訳叢編訳委員会編、中日文化協会出版組、1942年]
日本の社会科学の現状『中日文化』1-1、3月1日
いかにして新東亜建設運動を前進せしむべきか『日本評論』16-3、3月1日[『政治の理論』収録]
南京中央大学訪問記『文化』8-3、3月1日
[「壮年団全国連合に望む」]『壮年団』7-3、3月5日
二つの新体制論[谷口吉彦『新体制の理論』(千倉書房、1940年)、石川興二『新体制の指導原理』(有斐
閣、1940年)の書評]『京都帝国大学新聞』327、3月6日
森戸辰男著“戦争と文化”[「読書欄」]『日本読書新聞』150、3月25日
ファシズムの論理 パレート社会学の根本問題『イタリア』1-1、4月1日[「パレート社会学の論理」と改題
『民族社会学の構想』収録]
翼賛会運動の危機『日本評論』16-4、4月1日[『政治の理論』収録]
米国の挑戦[「内外展望」]『蒙古』8-3・4(通巻106)、4月1日
革新の停滞とその打開『改造』23-8<時局版17>、4月2日[『政治の理論』『時評集』収録]
翼賛会改組評[「論説及時評」]『エコノミスト』19-16、4月28日
地方文化を語る『科学ペン』6-5、5月1日[座談会：阿部次郎、中川善之助、松隈健彦、木村龜二、三宅
剛一]
積極的政治の創造『政界往来』12-5、5月1日
全体的社会観の方向 我最近の社会観に就いて『日本学芸新聞』108、5月10日

文化国策への提案 文化機構[「文芸」]『都新聞』5月22～24日【方針の明示、協力の積極性、一元化の要】
事変新局面への展望『大陸』4-6、6月1日[「事変新局面の展望」と改題『政治の理論』収録]
政治力の追求『知性』4-6、6月1日[『政治の理論』収録]
ゾムバルト[「学界余滴」]『東京朝日新聞』6月5日[『学界余滴』(甲鳥書林、1942年7月10日)収録]
欧羅巴文化の問題『科学ペン』6-7、7月1日
国民文化への構想『現代』22-7、7月1日
[「中国の知識階級に与ふ」]『東亜解放』3-7、7月1日
東亜政策への基本的認識『日本評論』16-7、7月1日[『政治の理論』収録]
世界動乱と知識階級『改造』23-15、8月1日
大学教育論[「特輯大学論」]『科学ペン』6-8、8月1日
政治力強化の問題[「協力会議を結実せしめよ」]『中央公論』56-8、8月1日
アメリカ社会機構批判[「特輯アメリカを衝く」]『統制経済』3-2、8月1日
[「独ソ開戦の報を、何時、何所で、どんな風に聞きましたか？そして、どんな感想をもちましたか？(ハガキ回答)」]『文芸』9-8、8月1日
社会進化と戦争との関係－社会ダーウィニ主義の戦争社会学－『理想』123、8月1日[「社会進化と戦争」と改題『民族社会学の構想』収録]
大日本東亜同盟論『改造』23-16、8月2日
社会学の現在における課題[「日本社会学会紀元二千六百年記念臨時大会研究報告」]『社会学』8、8月2日
人種、国民、民族[「日本社会学会第十五回大会研究報告」]『社会学』8、8月2日
経済人の終焉『商工経済』12-3、9月1日[『民族社会学の構想』収録]
東亜連盟の必然性[東亜連盟夏期講習会速記]『東亜連盟』3-9、10、9月1日、10月1日
三つの人間学－シューラー、ゾンバルト、フォン・ウィーゼー『文化』8-9、9月1日[『民族社会学の構想』収録]
「日本政治の基準」その他[「新著月評政治評論」]『東京堂月報』28-9、9月15日
東亜防衛体制確立の方途『大陸』4-10、10月1日
米国に与ふ[「最後の言葉」]『日本評論』16-10、10月1日[『時評集』収録]
整然たる組織的体系－尾高邦雄著“職業社会学”[書評]『一橋新聞』335、10月10日
官僚機構の改革[「論説及時評」]『エコノミスト』19-38、10月13日
政治随想と評論[「新著月評政治評論」]『東京堂月報』28-10、10月15日
地方文化の問題について[「文芸」]『都新聞』10月16、17、19日【1 広い見地を、2 地盤の確立、3 有機的な結合】
内閣整備の再発足[「東条内閣の課題」]『合同新聞』10月29日
出版文化の非常時『中央公論』56-11、11月1日
勤労する心『婦人公論』26-11、11月1日

回顧と展望『海』11-12、12月1日

民族主義と国民主義『財政』6-12、12月1日[『民族社会学の構想』収録]

文学者と政治行動『新潮』38-12、12月1日

民族及びその起源の問題『知性』4-12、12月1日[「民族の起源」と改題『民族社会学の構想』収録]

東亜連盟と民族政策『東亜連盟』3-12、4-1、12月1日、**1942年**1月1日[「東亜連盟の必然性」(『東亜連盟』3-9、10、9月1日、10月1日)の続稿]

日米破局の前夜に想ふ『文芸春秋』19-12、12月1日

『理想と現実』その他[「新著月評政治評論」]『読書人』1-1、12月1日

米国の文化界に与ふ[「アメリカへの公開状」]『東亜解放』3-12、12月10日

人口問題の下にあるもの『人口問題講演集』14、12月26日[『著作集』10収録]

1942(昭和17)年

民族の問題 精神的基調の確立[「大東亜政策への展望」]『一橋新聞』340、1月1日

東亜新秩序建設の理想主義『外交時報』890、1月1日

戦時生活の倫理『科学主義工業』6-1、1月1日[『民族社会学の構想』収録]

原理的立場を闡明 社会哲学者の多彩な進出[「回顧と展望 社会科学 社会・哲学」]『帝国大学新聞』883、1月1日

女性に要求される社会生活の態度[「新女性精神の建設」]『婦人日本』8-1、1月1日

完勝のために[「時観」]『合同新聞[夕刊]』1月6日

長期戦に処す社会生活の理念『東京朝日新聞』1月18、21、22日

民族の本質とその起源『人口問題』4-3、1月31日[「民族の概念」と改題『民族社会学の構想』収録]

文化の超越的な解釈『新創作』4-2、2月1日

大東亜政治論『日本評論』17-2、2月1日

アジアを愛するか[「時観」]『合同新聞[夕刊]』2月14日

統一的思想の創造 鋳型は日本の伝統の中にある[「大東亜文化の構想①思想」]『日本読書新聞』187、2月16日

東亜共栄圏の文化的諸問題[「大東亜文化の為に」]『新文化』12-3、3月1日

戦時下女性の教養について『令女界』21-3、3月1日

歌から思ふこと[「大波小波」]『都新聞』3月9日

民族政策の試練[「時観」] [夕刊]』3月17日

翼賛選挙に望む[「論説及時評」]『エコノミスト』20-12、3月25日

翼賛選挙の政治的性格『改造』24-4、4月1日

翼賛の一票[「時観」]『合同新聞[夕刊]』4月24日

歴史社会学の構想『神戸商大新聞』137、4月25日
高田博士『民族論』『図書』76、5月5日
民族政策の基調[「文化評論」]『帝国大学新聞』901、5月18日
職業的政治家[「時観」]『合同新聞[夕刊]』5月30日
新政治力への待望[「随想」]『工業組合』4-6、6月1日
今次総選挙についての批判―来るべき地方選挙への示唆―『都市問題』34-6、6月1日
翼賛会の新構想[「時観」]『合同新聞[夕刊]』6月2日
民族政策の発展過程『外地評論』5-6[44]、6月7日
七月七日を迎へて[「時観」]『合同新聞[夕刊]』7月7日
文学者の思想戦への態度について[「文学者と思想戦」]『新潮』39-8、8月1日
支那事変完遂の道『大陸新報』8月12日
日本社会学の建設―社会学を学ぶ人々のために―[「国民文庫の設計 12 社会」]『日本読書新聞』224、11月2日
読書指導『帝国大学新聞』925、11月30日
敵愾心について『東京新聞』12月3～5日【(上)米の復讐熱、(中)目的貫徹へ、(下)積年の宿敵】
東亜民族政策の意義 民族的協同主義に就て『関西大学新聞』113、12月19日

1943(昭和18)年

学制改革に残る問題[「時観」]『合同新聞[夕刊]』1月22日
一列励行の倫理『大阪毎日新聞』1月24日
学制改革の問題[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』1月28日
青年の新しき形成『中央公論』58-2、2月1日
父の読書『学燈』47-2、2月5日
宣伝戦[「時観」]『合同新聞[夕刊]』2月20日
ある発見[「監視哨」]『東京朝日新聞』2月23日
同生同死[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』3月21日
出版を愛する心 文化的使命を自覚せよ『日本読書新聞』242、3月27日
同生同死[「時観」]『合同新聞[夕刊]』4月15日
国民政治力の決戦的結集『政界往来』14-4、4月8日
学生生活の再検討[「文化評論」]『帝国大学新聞』946、5月24日
戦争目的と思想戦[「論叢」]『同盟世界週報』24-22、5月29日
戦争と理念 ジンメル「戦争の哲学」に触れて『京都帝国大学新聞』366、6月20日
総合社会学の立場―歴史社会学の基礎づけ―『九州帝国大学新聞』266、6月20日

大学の閉鎖[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』6月26日
パレートと現代社会学『日伊文化研究』13、7月8日
歴史社会学の概念[「日本社会学会第十六回大会研究報告」]『社会学』9、7月30日[表題のみ掲載]
読書文化論『知性』6-8、8月1日
地域組織と職域組織[「特輯 国内態勢強化と国民運動」]『日本評論』18-11、11月1日
法文経系統学部の使命[「文化評論」]『帝国大学新聞』966、11月29日
総合社会学の立場—ある批判に対して—『文化』10-12、12月10日[増補して『社会学の立場』『著作集』
3収録、さらに結論部を大幅に加筆して「特殊科学的「総合認識」と改題『総合社会学の構想』収録]

1944(昭和19)年

研究意欲の克明 トウルンワルド氏編・福武直氏訳「社会学の対象と方法」『帝国大学新聞』973、2月7日
歴史社会学の一例—マックス・ウェーバーの立場について—『社会学研究』<日本社会学会年報>1、6
月10日[『社会学の立場』『総合社会学の構想』『著作集』3収録]
流言への戦ひ『東京新聞』7月29日
決戦経済と利潤問題『同盟通信 時事解説』3169~3171、9月4~6日[座談会：住田正一、山崎靖純、吾
妻光策、板垣武男]
国民的であれ 決戦下の言論明確化『読売新聞』9月20日
[「出陣・動の学徒に薦む」]『大学新聞』8、9月21日
思想文化対策の反省『財政』9-10、10月1日
言論暢達とは何ぞや『同盟通信 時事解説』3200、10月5日[座談会：津久井龍雄、山崎靖純、住田正一、
堅山利忠、板垣武男]
体制の基礎理論 経済社会学的基礎付[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3204、10月9日
印度の階級社会、宗教及び民族主義[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3208、10月13日
東亜諸民族の性格[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3218、10月23日
学徒勤労管理への提言[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3223、10月28日
戦意昂揚の在るべき道『構想』7-11、11月1日
指導者とは『体育日本』22-10、11月1日
戦時文化問題の総観[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3228、11月2日
祝ひ酒を繞る輿論[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3236、11月10日
国民指導の態度 官界への要望[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3244、11月18日
戦意昂揚と敵愾心[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3262、12月6日
焦点は機動能力 国民組織の現段階的課題『大学新聞』16、12月11日
宣伝のあるべき道[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3271、12月15日
アメリカ国民性の解剖[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3278、12月22日

1945(昭和 20)年

- 民族政策の推進－鮮台同胞の処遇改善－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3297、1月10日
- 銃後生活の明朗化－有馬頼寧氏の社会随想－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3307、1月20日
- 生活決戦化の根源－国民組織の欠陥－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3313、1月26日
- 米国批判の積極的方向[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3320、2月2日
- 新興所得階層の問題[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3326、2月8日
- 現代民族論の課題[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3335、2月17日
- 敵愾心と戦争目的 低俗な宣伝方針を一擲せよ[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3346、2月28日
- 戦時生活の問題点 国民的道義と生活的対策[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3354、3月8日
- 近代民族の超克－現代民族論の動向－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3365、3月19日
- 政治思想戦の要訣－国民への信頼感から出発せよ－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3370、3月24日
- 決戦施策の断行－現下の国民心理－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3375、3月29日
- 学徒動員の現状に就て『東京新聞』4月5日
- 学校閉鎖論－学校教育の問題－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3368、4月9日
- 流言蜚語の危険－敵の心理攻勢への地盤[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3391、4月14日
- 本土決戦の覚悟『週刊朝日』47-16、4月22日
- 近隣集団の機能－その理想と現実－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3405、4月28日
- 大衆娯楽の考察－非常時における対策[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3410、5月3日
- 戦争指導と宣伝－あらたなる構想の必要－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3417、5月10日
- 疎開の急展開－建設的計画的指導の要－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3422、5月15日
- 独逸崩壊後の輿論－東亜自主の立場の確認－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3429、5月22日
- 独逸敗戦の原因－その教訓を如何に汲みとるべきか－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3439、6月1日
- 独逸敗戦の原因(続)－国際政局の破綻－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3445、6月7日
- 国民義勇隊の結成－最後の国民組織－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3453、6月15日
- 桑港会議と世界の平和－英米の対日政治攻勢－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3475、7月7日
- 組織問題の再確認－機構改革とその反省－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3480、7月12日
- 生活における道義『週刊朝日』47-28・29、7月15日
- 生活的道義の問題－反省さるべき諸点－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3487、7月19日
- 宣伝戦の在るべき道－新聞言論における宣伝－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3491、7月23日
- 宣伝の決戦時－新聞に現れた宣伝論－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3492、7月24日
- 万邦共栄の平和－米英平和理論との対決－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3495、7月27日

空襲下の文化政策－直前の問題の凝視－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3501、8月2日

戦争社会学の企図－関係的立場の意義と限界－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3520、8月21日

毒を薬にする 世界水準へ国民の協力に俟つ 文化人の使命は重大[「新日本建設の目標」]『河北新報』8月23日

大目標は揺がず 神州将来の建設『月刊東北』2・8・9、9月1日

時艱突破の基盤『同盟世界週報』26・20、9月1日[『時評集』収録]

生活的道義の低下－統制経済との関連－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3542、9月12日

再興への大前提－峻厳な自己認識－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3544、9月14日

戦後における隣組の機構－自警と啓蒙の強化－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3551、9月21日

精神面の武装解け 食糧、文教政策への勇断待つ[「新内閣に寄す」談]『河北新報』10月7日

都市解体論－石原将軍の日本新建設への一提言－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3568、10月8日

国民性の改造－民主主義の問題－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3576、10月16日

教育再建の基標－不徹底な当局の態度－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3578、10月18日

日本再建の進路－反省と確信－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3583、10月23日

政治的精神主義－総懺悔と政治的責任－[「時論要解 社会」]『同盟通信 時事解説』3585、10月25日

自由に根ざした道義を確立[「自由と道義(特輯)」]『時局情報』9・12、11月1日

知的観察力を 新政治と学生の態度『大学新聞』43、11月1日[帝国大学新聞社編『再建の指標』<学徒叢書>(勤労学徒援護会、1946年10月20日)、『時評集』収録]

これでよいのか！敗戦日本の戦後処理『時事通信 時事解説』6～8、11月8～10日[座談会：山崎靖純、住田正一、津久井龍雄、大熊信行、板垣武男]

軍人と軍閥－国民の軍人に対する態度－[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』17、11月21日

軍部への疑惑－国民はいかに考へてみるか－[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』25、12月1日

新聞ジャーナリズムの新動向『雄鶏通信』1・2、12月1日

教育革新の輿論－文部省と大学－[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』27、12月4日

食へぬ学校－教育の難関突破－[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』36、12月14日

自由主義[「婦人参政講座」]『河北新報』12月27、28日[『政治教養読本』(河北新報社、1946年)収録]

1946(昭和21)年

思想界の新しき出発『エコノミスト』24・1、1月1日[『時評集』収録]

公民講座『鉄道文化』4・1、2、1月1日、2月1日、『交通』[『鉄道文化』改題後継誌]4・3～12、5・1～3、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、1927年1月1日、2月1日、3月1日【第1講：自由、第2講平等、第3講：民主主義(一)、第4講：民主主義(二)、第5講：怠ける権利、第6講：家族と国家、第7講：与論、第8講：議会と議会議主義、第9講：国民性、第10講：郷土の考へ方、第11講：家族制度、第12講：労働組合、第13講：国民の教育、第14講：公德心、終講：社会人の立場】

現代思潮[「婦人参政講座」]『河北新報』1月9、10日[『政治教養読本』(河北新報社、1946年)収録]

交通と道義『せんでつ』1、[1月]

学生の進むべき道『月刊読売』4-2、2月1日

国民性の改造『新生』2-2、2月1日

[「日比谷に於ける教員デモ行進の感想(到着順)」]『国民教育(中学年)』6-1、4月1日

永遠の自由主義『文化展望』1-2、5月1日

吉野作造先生[「偉人物語」]『東北小国民』3・4、5月7日

総選挙に現れた国民の意欲—民主化はどれだけ推進されたか—『週刊河北』19、5月11日

近頃の旅行で困った話 嬉しかった話 腹の立つた話『交通クラブ』1-2、5月15日

デモクラシーと社会主義[「現代と社会主義」]『世界文化』1-6、7月1日

停滞する民主化—終戦一周年を顧みて—『河北新報』8月16日[『時評集』収録]

歴史文学私見—大池唯雄君へ—『東北文学』1-9、9月1日

家庭の危機[「人民評論」]『夕刊新大阪』209、9月1日

*日本人の現実主義『水耀』1、10月1日

1947(昭和22)年

[「もしも結婚するならば」]『朝』1-2、4月1日

現代俳句について『現代俳句』2-4、4月5日

ヒューマンイズムの昂揚『創造』17-5、5月1日

参議院の問題『陽光』2-4、5月31日

自然科学と社会科学『科学圏』2-6、6月1日

参議院の問題『いわて青年』1-4、6月10日

基督教の現代的意義『基督教文化』18、9月1日

恒心の防衛[「社会時評」]『社会圏』1-1、10月2日

国民性の民主的改造—日本民主化の究極点—『社会圏』1-2、11月1日[『時評集』収録]

童心をむしばむもの…[「教育」]『河北新報』12月14日

社会危機と哲学『哲学評論』2-7、12月15日

1948(昭和23)年

俳句における人間『駒草』16-1、1月1日

俳句の精神について『太陽系』16、1月20日

文化社会学の構成—松本社会学への反批判『社会学研究』<日本社会学会>1-3、3月31日[『社会学の立場』『著作集』3、「文化社会学の構想」と改題『総合社会学の構想』収録]

イデオロギーの問題『社会圏』2-4、4月1日

社会学の立場[「自著自讃」]『出版天国』4、6月1日

国家社会学の構成—序論的考察—『社会科学評論』1・2、7月1日[「国家社会学へのアプローチ」と改題
『総合社会学の構想』収録]

1949(昭和24)年

高田保馬博士「世界社会論」[書評]『社会科学評論』4、6月1日

[「皇太子様の御教育に対して斯く熟願する」]『全人』19-6、6月25日

1950(昭和25)年

歴史における進化と進歩『日本歴史』22、1月1日

アメリカ社会学について[「学界評論」]『社会科学評論』5、2月1日[「第二次大戦後のアメリカ社会学につ
いて」と改題『現代社会学の視角』収録]

大衆の分析 集団の構成の諸性格『改造』31-4、4月1日[『著作集』9収録]

大衆の研究について『社会学研究』〈東北社会学研究会〉1、7月10日[『著作集』9収録]

戦後における理論社会学『社会学評論』〈日本社会学会〉1-1、7月20日

*政治学入門『青年評論』46、7月

政治学入門『青年文化大学』9、8月1日

衣服生活の将来—ある婦人会での講演の一節—『社会学研究』2、11月20日

日本社会学の近状—在米のS君への手紙—『社会学研究』2、11月20日

1951(昭和26)年

理想と理実との間『ニューエイジ』3-1、1月1日

三輪寿壯論[「現代人物論アルバム」]『読売評論』3-1、1月1日

現代の時刻『河北新報』1月3日

社会学要綱 黒川純一著『社会学評論』1-4、3月10日

社会学に対する私の立場『社会学評論』1-4、3月10日[主張・批判・再批判を誌上討論：高田保馬、尾高
邦雄][日高六郎編『社会学論集 理論篇』〈大学セミナー双書〉(河出書房新社、1959年)収録]

講和と地方自治『河北新報』3月16日[対談：阿倍真之助]

社会科学の意義『社会学研究』3、4月1日

水谷君の追憶『社会学研究』3、4月1日

新宿肅正と総監の態度 火ぶたを切った読売[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1627、4月13日

「身上相談」をめぐる 「婦人公論」のお披露目[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1640、4月
28日

インテリゲンチアの立場 永久に新しい問題として[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1652、5月15日

児童憲章の宣言 三紙の説く精神を活かす道[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1656、5月19日

近代の政党および政党制度—その歴史的意義—『社会学評論』2-1、5月20日

現代風俗の側面的観察 外人はどうみているか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1665、5月30日

嫁と姑の問題 身上相談の一つの行きかた[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1673、6月8日

人種的偏見の克服 ユネスコの人種問題にかんする声明[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1680、6月16日

おきな横顔[「随想」]『夕刊河北』6月26日

児童人権のための抗議 本木事件と東京都児童福祉審議会の意見書[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1698、7月7日

サンマー・タイムと世論 調査結果の示唆するもの[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1707、7月18日

家庭的惨劇の続発 一家心中、肉親殺傷事件とその原因の究明[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1715、7月27日

家庭教育をめぐる論議 家庭教育書の流行と関連して[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1723、8月6日

棚上げの社会保障制度 勧告実現を阻む諸理由[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1731、8月15日

教育制度をめぐる諸問題 毎日と朝日の社説[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1739、8月24日

官僚精神への批判 山川菊栄女史の婦人少年局長辞任後における一波瀾[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1744、8月30日

日本の現実的課題—教育の指導原理について—『教育技術』6-7(臨時増刊)、9月5日

性の学問と性教育 わが国の現状への反省[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1751、9月7日

人口問題の直視 「人口白書」を中心として[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1761、9月19日

アメリカ社会学をめぐる『社会学研究』4、10月1日

アメリカの社会学者『社会学研究』4、10月1日

マス・コミュニケーション 「社会科学評論」特集の諸論文[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1777、10月9日

世界の人口危機と日本 人口問題に関する内外の諸論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1786、10月19日

天野文相の国民道徳観 「国民実践要領」発表を前にした諸論義[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1798、11月2日

エチケットと礼儀 自国の誇りと排外主義[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1809、11月16日

日教組の教育研究大会 中央三紙の論調からみた同大会への期待、評価、希望[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1819、11月29日

官紀肅正の要望 汚職事件に対する世論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1822、12月3日
パチンコの流行 現代日本文化の象徴[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1835、12月18日
天野文相の心境 “実践要領”はどうなったか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1843、12月27日

1952(昭和27)年

菊のカーテンをめぐって 菊のカーテンという言葉[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1851、1月10日
革命の社会学的概念『社会学評論』2-3、1月10日
戦争犠牲者の援護 毎日、読売両紙の対策の考え方[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1864、1月26日
民族運動変遷史『学苑』<旺文社>13-2、2月1日
成人する青年への期待 「成人の日」に寄せた朝日、毎日、読売三紙の社説[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1871、2月4日
葬られた 〳紀元節、の復活 しかし逆コースへの危険性は依然として存在する[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1884、2月19日
職業教育の性格 逆行をおそれる論調と天野文相の見解[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1887、2月22日
子供の純潔問題 社会環境と性教育の重要性[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1902、3月11日
漢文は必修にすべきか 土岐・日夏両氏の見解と中央各紙の賛否両論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1907、3月17日
大学の自治をめぐって 東大事件と学長官選案[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1914、3月26日
人身売買と赤線区域 新潟事件をめぐる朝日の論調[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1919、4月1日
家出娘の社会的背景 東畑教授、戦後農村の不安定性を論ず[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1926、4月9日
式典歌の是非 識者の意見と新聞の論調[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1931、4月15日
日航旅客機の惨事 原因の徹底調査、責任を追究する中央各紙の社説、編集者[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1941、4月26日
デュルケームの社会学主義『社会学研究』5、6、5月1日、12月15日[『総合社会学の構想』収録]
五・一騒擾事件の反響 中央三紙、筆をそろえて遺憾の論陣をはる[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1952、5月13日
続発する大学事件 第二東大、早大両事件に対する中央各紙の論調[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1959、5月21日
若い世代への入門書 社会の進歩に対する熱情と関心[福武直・日高六郎共著『社会学 社会と文化の基礎理論』の書評]『日本読書新聞』646、5月28日
バラバラ事件の反響 公務員濫造の生んだ悲劇[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1968、5月31日

教師の生活と意見 中央公論 6月号の多元的座談会[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1978、6月12日

町内会と青年団の復活 独立後の動向と各紙の批判[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1984、6月19日

社会変動の理論[「社会学講座」]『社会学評論』2-4、6月20日

衣食住における二重生活 「婦人朝日」の世論調査と中谷宇吉博士の解説[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』1997、7月4日

日本民主主義の歴史的盲点 明治変革を彩った日本的ナショナリズムとデモクラシーの相克!『改造』33-10、7月15日[『時評集』収録]

大学教授・学長の生態 設備の充実を主張する杉教授と設備より人を説く小泉信三氏[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2007、7月16日

現代日本教育の欠陥 長谷川如是閑氏の教育論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2012、7月22日

「恐怖の街、呉市 英連邦兵暴行事件の反響と真相」[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2019、7月30日

教育委員会法の改正 衆院文部委員会の改正案否決に対する世論の動向[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2026、8月7日

テレビ問題の幕切れ 電波監理委員会の決定を各紙はどう見たか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2031、8月13日

学生の就職問題 経営者は学生運動の実態を知っているか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2046、8月30日

現代の流行歌をつく 現実のウソを打破することが先決[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2059、9月15日

『現代警官論』論争 本田隆一氏の見解とこれに対する現職警官の感想[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2066、9月24日

現代恋愛論の焦点 恋愛の諸相を通して逆コース風潮を見る[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2071、9月30日

「分らない層」の政治意識『理想』233、10月1日

教育委員選挙への関心 不信、懐疑から協定へー中央三紙三様の態度[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2076、10月6日

教委選挙と今後の問題 朝日と毎日、教育委員会法の本質の活用を強調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2085、10月18日

社会学[「読書講座」]『日本読書新聞』666、10月20日

雑誌の新聞批判 朝日・毎日・読売三紙を俎上に改造の調査研究[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2099、11月1日

ジャーナリズムの欠陥 津田左右吉博士の批判[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2104、11月8日

産業教育の再検討 日経連の要望をめぐる諸論議[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2121、11月28日

産児調節と人口問題 サンガー夫人の家族計画論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2129、12月

8日

青年学級の進路 法制化をめぐる問題点[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2133、12月12日

新情報機関の構想 意外なほど慎重な朝日の態度[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2137、12月17日

軍人恩給の問題点 復活に賛否両論、新聞社説と世論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2146、12月27日

1953(昭和28)年

新聞の自由と責任の法制的研究 有意義・新聞協会編『新聞の自由』[「書評」]『時事通信 時事解説版』2149、1月6日

クリスマス風景批判 国民性反省の一素材[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2151、1月8日

皇室は民主化されたか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2167、2168、1月28、29日【(上)独立第二年の正月と秩父宮の御逝去をめぐる、(下)秩父宮の御葬儀と遺体解剖の国民への反響】

歴史教育の在り方 教育刷新との関連において[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2178、2月7日

阿閉吉男・内藤莞爾編社会学史[「書評」]『社会学評論』3-2、2月15日

社会主義による近代社会の矛盾克服[福武直著『社会学の基本問題』の書評]『日本読書新聞』682、2月16日

大学教授は食えないか 口火となった中野好夫氏の辞職、窮状明かす高橋、本多両教授[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2188、2月21日

栄典制度への批判 逆コース的傾向を指摘した各紙、公聴会での圧倒的反対論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2194、2月28日

“ハイアライ”をめぐる世論、もつての外と一斉に反撃[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2203、3月11日

バカヤロウ事件と世論 首相の暴言には弁解の余地なし、だが議員も反省せよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2215、3月26日

福武直著社会学の基本問題[「書評」]『社会学評論』3-3、4月3日

中共引揚げの後と先と 中央紙に反映した批判の種々相[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2226、4月8日

皇太子のご渡英と鳩の死 ジャーナリズムのばか騒ぎは反省さるべきである[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2232、4月15日

社会科と社会学 社会科廃止論の声に対して『朝日新聞』4月21日

日本語の改良問題[「時論要解 文化」]『時事通信 時事解説版』2250、2251、5月8、9日【(上)良識に立つ小泉博士の所論、(下)桑原、金田一両氏の小泉博士への反論】

今年のメーデー 各紙は整然と行われることを要望し、それは実現された[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2256、5月15日

社会科と歴史教育 津田博士の所論は実証性のうすい極論である[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2266、5月27日

皇太子とイギリス 無関心というのが真相ではないか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2281、6月13日

大学教授の待遇改善論 安易な議論は戒めなければならぬ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2294、6月29日

ルーズヴェルト夫人の意見[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2303、2304、7月9、10日【(上)紋切型の発言も、夫人の立場からは一応当然といえる、(下)「アメリカの良心」にも限界はあった】

国会議員の歳費増額 社会党議員はとくに反省を要する立場に立っている[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2319、7月28日

社会科と社会学—社会学者の一感想—『社会学研究』7、7月30日

文化の国債の交流 ルーズヴェルトと夫人来訪によって反省させられた可能性と限界[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2324、8月3日

反米感情の実体 分析と批判に二様の見解[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2345、8月27日

キンゼイ報告の発表 日本での受け入れ方を見て[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2353、9月5日

キンゼイ報告発表の反響 [「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2361、9月15日

社会[「教養文献解題」]『中央公論』68-11、10月1日[『最近の教養文献』<現代教養文庫 111 何を読むべきか 第2輯> (社会思想研究会出版部、1954年)収録]

社会科改訂の政治的意図 再軍備の進行を引合いに出し、政府の企図を衝く二論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2375、10月2日

学生選挙権問題の修正 自治府の態度は終始世論に叩かれ通した[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2381、10月9日

[「教養文献解題 社会」]『書斎の窓』5、10月10日

学生はどう変っているか 教師の見る当代学生気質[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2393、10月23日

[「葉書回答 私の靈魂観と来世観」]『大法輪』20-11、11月1日

反米感情の観点[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2404、2405、11月6、7日【(上)アメリカは日本の国民性のあらわれと見る、(下)対日政策への反発と見る日本の知識層】

社会科のルネサンスを目指して 勝田、宮原、宗像三氏編『日本の社会科』[「書評」]『時事通信 時事解説版』2412、11月16日

学術会議はどこへ行く 都留、小掠両氏、現状のままでの強化と改善を主張[「時論要解 文化」]『時事通信 時事解説版』2413、11月17日

進適検査への疑問 存廃をめぐる学者側、受験者側の論議[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2423、11月30日

埋火断想『河北新報(夕刊)』12月1~21、23~29日

草月流の流行 秘密はどこにあるかを分析した『週刊朝日』の記事[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2433、12月11日

ティーンエージャーの問題 彼らを責めるのは大人の反省不足を物語る[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2440、12月19日

人権を擁護するには 日常生活にとどまらず政治のあり方にも関心を払うべきだ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2445、12月25日

1954(昭和29)年

クリスマスへの批判 クリスマスは商業化され本来の意義を失っている[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2451、1月6日

二重橋事件の反省 警察、群集、宮内庁三者に対する国民の声[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2464、1月22日

中教審の答申をめぐって 大方の世論は教師の自由を守れと主張している[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2648、1月27日

二重橋事件の一点 日本人特有の群集心理が一要因であつたことは否めない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2471、1月30日

神々の復活 復活の諸相から神国日本の再建を警告する二論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2480、2月10日

尾高邦雄著新稿職業社会学[「書評」]『社会学評論』4-3、2月10日

紀元節の復活問題 賛否両論の根拠[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2491、2月23日

教育二法案をめぐって[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』2499、2500、3月4、5日【(上)学界・教育界の反対論、(下)当局者としての文相の寄書と矢内原氏の再論】

知識人批判の問題点 本田顕彰氏の「平和産業」論をめぐる桑原武夫氏との論争[「時論要解 文化」]『時事通信 時事解説版』2511、3月18日

日教組の“日曜授業” 振替授業と二法案との是非は別問題[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2517、3月25日

アメリカへの反発感情 ビキニ事件以後、庶民的広さで激成されている[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2538、4月19日

「社会体系」について[「研究ノート」]『社会学研究』8、4月20日

笑いの擁護 日本人の冗談的笑いは擁護される以上に高揚される必要がある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2544、4月26日

鏡子ちゃん事件と世論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2557、2558、5月14、15日【(上)『読売』、学校側の責任を鋭く追及、(下)犯人逮捕後においても学校側の反省と善処は要望されている】

旭丘中事件と世論 分裂授業以後の組合の行動に関する限り批判的だ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2263、5月21日

柔軟流暢な決定訳—社会学書としての必読の古典— テンニース著杉之原寿一訳『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト」] [「書評」]『図書新聞』247、5月22日

マッキーヴアー[「現代に生きる思想家」]『理想』253、6月1日

“学生選挙権、修正と世論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2575、6月4日

「ユーモア劇場」の終焉 世論は言論の圧迫を論じ、NHKの自主性を要望する[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2583、6月14日

近江絹糸ストへの世論 超現代的な暴君として夏川社長を総攻撃[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2592、6月24日

「君が代」問題の再燃 是非をめぐる文部省、日教組、一般人の論争[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2599、7月2日

健保点数の引下げ問題 医療亡国にならぬよう良識ある検討をのぞむ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2610、7月15日

新聞の魔術性について解明 新聞人への良心の書「新聞の読み方に関する十二章[「書評」]」『時事通信 時事解説版』2612、7月17日

放送法改正の問題 各紙、言論統制の再現とみ、反撃[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2622、7月29日

結核患者の座りこみ 座り込みには反対するが結核対策の再検討は強く要望[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2632、8月10日

大津出迎えの大騒ぎ、群集心理に対する諸氏の批判[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2640、8月19日

天皇御旅行を顧みて 再び菊のカーテンの奥深くおしかくされた[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2647、8月27日

町村合併の問題点 実情に即した各氏の批判と提言[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2655、9月6日

読者の新聞値上げ批判 読者に負担をかけず経営建直しの方途はあるはず[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2658、9月9日

カスの精神とのたたかい 清水幾太郎氏の『現代社会批判』[「書評」]『時事通信 時事解説版』2661、9月13日

久保山事件、国内の反響 人類的な見地から原子兵器禁止への要望が高まってきた[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2682、10月8日

洞爺丸事件への世論 各紙、将来に備え根本的な台風対策を樹てよと主張[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2683、10月9日

相模湖事件への世論 広範囲にわたって問題点が提起された[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2693、10月21日

中央調査会の発足と世論 いわゆる緒方構想と結びつける反対論が強い[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2695、10月23日

暴力団狩りへの要望 今度こそ根絶するまで検挙を続行せよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2708、11月9日

大学卒業生の就職難 当面使用者の思いやり、根本的解決には大学制度の再検討[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2717、11月19日

競輪とオリンピック 競輪はトバクでありその寄付で選挙を派遣することは筋違いだ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2725、11月30日

連発式パチンコの禁止 国民大衆のため競輪・競馬も全廃せよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2728、12月3日

空気銃をどう取締るか 野放しにしておいた当局の怠慢さこそまず反省されなければならない[「時論要解

社会』『時事通信 時事解説版』2741、12月18日

マス・ソサイチーの考察『東北大学文学部研究年報』5、12月20日[「マス・ソサイティの考察」と改題『著作集』9収録]

鳩山内閣の新生活運動 国民的な運動にまで盛りあげよ[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2746、12月24日

1955(昭和30)年

マス・コミュニケーションについて J.B.Ford, Is there Mass Communication?(Sociology and Social Research, Vol.37, No.4, 1953)、Primary Group in Mass Communication(Sociology and Social Research, Vol.38, No.3, 1954)[「書評』』『社会学研究』9、1月20日

門松とクリスマス・ツリー 主婦連の自粛運動をめぐる賛否両論[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2753、1月7日

世論の力の再評価 総辞職に追いこむために言論は空しくなかつた[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2758、1月13日

鳩山首相の神宮参拝 復古調の民衆におもねる一つの選挙対策[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2769、1月27日

競馬競輪の平日開催禁止 原則的には賛成だが選挙対策のにおいがする点に問題がある[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2771、1月29日

植民地根性の根深さ 国全体が“誇り”に欠けている証拠だ[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2785、2月15日

学力低下の問題点 教育制度の罪か、教師の指導力の責任か[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2793、2月24日

安藤社会科への批判[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2802、2803、3月7、8日【(上)教育学者グループは底に潜む反動性を指摘する、(下)新聞論調も社会科教育の本領は失われると見る】

裏口入学への訴えと弁解 私学関係者の猛省を促す[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2816、3月24日

〔総選挙と政局〕『国論』3-3、4月1日

『セクサス』の押収処分 世論はかならずしも同情的ではない[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2830、4月9日

児童雑誌自粛への要望 少年少女の夢をそだてる明るいたのしい読物を[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2835、4月15日

ひらがな先習かカタカナ先習か 国語教育上の一問題めぐる一般人と専門家の意見[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2847、4月30日

*会報発刊に寄せて『東北社会学会会報』1、4月

富永元中将の脱出問題 村松氏の一文は一応の解決を与えている[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2859、5月17日

紫雲丸事件と世論 国鉄の機構いじりだけでは事故はふせげない[「時論要解 社会』』『時事通信 時事解説版』2867、5月26日

修学旅行のあり方 災害の原因は交通機関にあるが日程の長すぎる点は反省せよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2872、6月1日

リースマン『孤独なる群集』[書評]『社会学研究』10、6月15日

栗原百寿君を悼む『社会学研究』10、6月15日

慶大生の舌禍事件 内部の意見と局外者の見方は対蹠的だ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2885、6月16日

学長監禁事件への世論 学生の暴力沙汰を非難、だが教授の無能を責める声もある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2892、6月24日

マス・コミュニケーション[「社会時評」]『季刊社会学』[復刊]5、6月25日

国定化傾向への批判 国民の良識が教科書問題を解決する形がのぞましい[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2897、6月30日

“売春放送”をめぐる 法案の成立にはプラスにならない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2903、7月7日

社会事業の暗影 お年玉年賀はがき事件を糸口としてバクロされた一、二の問題[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2916、7月22日

売春法案をどう見たか 反対論は結果的には業者を喜ばせるもの[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2920、7月27日

人類的見地の究明[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』【(上)ラッセルの戦争反対論現われた「人類」の概念、(下)サルトルの見解には国家主義への批判が不足している】2938、2939、8月17、18日

中谷博士のジャーナリズム論 最近の反米的風潮は類型化が病的に高進してきたもの[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2953、9月3日

*東北帝大新聞の頃『東北大学新聞』200、9月5日

新聞批判の問題点 真実の把握は不可能だろうそぶくのは批判ではなく弁解である[「時論要解 文化」]『時事通信 時事解説版』2974、9月29日

就職問題をめぐる論点 求人側は精神的説教をするだけでは足りない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2983、10月10日

大学教育改編論の台頭 就職難打開のための根本対策として[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』2991、10月19日

教委のめぐって 政治的考慮をはなれて現行制度を守り育てよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3002、11月1日

うたごえ運動の批判 卑俗な流行歌への反発、みんなの歌をつくれ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3005、11月5日

知識人への不信 アメリカにおける知識人と民衆との歴史的関連[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3014、11月16日

中谷博士のジャーナリズム再批判 「二種類の常識」の風潮を助長するもの[「時論要解 文化」]『時事通信 時事解説版』3024、11月29日

行政改革は実現するか 新内閣に期待できぬことは「副大臣制」に表わされた[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3029、12月5日

あふれる新鮮味—系譜的研究では第一級の—阿閉吉男著市民社会の系譜[書評]『図書新聞』326、12月10日

人口の大都市集中化 国勢調査中間集計の示唆する問題点と対策[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3036、12月13日

現代イデオロギー闘争の解明 山本新氏の『現代の政治的神話』[「書評」]『時事通信 時事解説版』3046、12月24日

文教改革案への不安 自党中心の「偏向」におちいるな[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3048、12月27日

1956(昭和31)年

小選挙区制の評価 前提をととのえ、然るのち小選挙区制の実現をいそげ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3054、1月9日

二大政党制の前途 民主主義と社会主義との調整・統合も可能となる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3057、1月12日

弥彦神社の惨事への反省 信仰心理の土台にあるものこそ究明されなければならない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3062、1月18日

社会保障後退への論調 裏切られた期待、はじめから公約などせぬがよい[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3075、2月2日

鳩山首相への風当たり 四方八方から批判の声が高まっている[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3077、2月4日

紀元節の復活をめぐって 裏面にひそむ動きが懸念される[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3085、2月14日

給食ミルク事件への反響 事件の裏にひそむ安易な心理こそくせもの[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3104、3月7日

小選挙区案への疑問 議員定数の増加、連座制強化措置の無視には納得いかぬ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3108、3月12日

紀元節復活の一步前進 背後にひそむ自民党の考え方こそ問題はある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3113、3月17日

日本のサラリーマン その実態からは後進的な日本の性格が看取される[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3121、3月28日

異色基調に民主社会主義 社会思想研究会編『社会思想辞典』[「書評」]『時事通信 時事解説版』3122、3月29日

保険医の総辞退職術 世論は挙つて医師会側の反省を促している[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3134、4月12日

「家庭を明るく」の是非 ことしの「婦人週間」のスローガンをめぐって[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3145、4月25日

地域社会の組織化—町村合併の一問題点—『社会学研究』11、4月25日[『著作集』10収録]

富岡十郎君の死を悼む『社会学研究』11、4月25日

阿閉吉男著市民社会の系譜[「書評」]『社会学評論』6-4、4月30日

特定郵便局長の政治活動 自民党提出の党略法案は国を危くするものである[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3150、5月1日

天皇誕生日と天長節 天長節の復活など却つて天皇一家には御迷惑だ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3156、5月10日

「家族制度」と「家」の制度 混乱を生ずるおそれあり、区別することが望ましい[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3165、5月21日

[「“右翼開眼に寄せられた諸家の批評と感想”]『国論』4-5、6月1日

社会党の妨害戦術 行きすぎは自民党を利する結果になる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3177、6月4日

売春防止法、今後の課題 抜け道を完全に塞がねば絶滅は期し得られぬ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3178、6月5日

暴力社会党、への批判 世論の支持を回復するには率直に世論にこたえよ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3186、6月14日

参院選挙戦と暴力論議 政策的論議を回避するものと見て不満が出てきている[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3198、6月28日

アメリカ社会学の新しい業績を批判的に摂取 西村勝彦著『理論社会学の根本問題』『図書新聞』355、7月7日

多久島事件と官庁の責任 政府の国民に対する陳謝の誠意が示されていない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3217、7月20日

参議院今後のありかた 政党化の傾向、良識の将来性をめぐって[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3228、8月2日

自由論争、をめぐって 日本では“真の自由”がもつと真剣に追及されねばならぬ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3242、8月18日

太陽族の生理と論理 石原氏の反批判に現われた“可能的な論理”への疑問[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3251、8月29日

暴力団を根絶するには 発生を容易にしている社会的基盤そのものを問題とせよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3261、9月10日

戦後との訣別、の問題 敗戦の教訓の忘却を意味するものではない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3271、9月21日

知識人論の展開 本筋をはなれて上滑りしている[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3276、9月27日

論説欄と報道面とのズレ 日ソ交渉の扱いに対する新聞批判[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3279、10月1日

文化勲章の授賞範囲 「拡大」をめぐる賛成論と反対論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3289、10月12日

厚生白書への反響 国民生活のゆがみ是正にあらゆる策を講ぜよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3299、10月24日

テンニエスの思い出『季刊社会学』7、10月25日

社会党と砂川事件 応援団の行動に走らず現実的な解決をはかれ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3303、10月29日

マルクス主義との対決 林健太郎氏の「国民的利益と階級的利益」[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3316、11月14日

公衆と大衆『社会学研究』12、11月20日[『著作集』9収録]

テンニエスの『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』—ケーニヒの批判を中心として[書評]『社会学研究』12、11月20日[「ケーニヒのテンニエス批判」と改題『増補版 ゲマインシャフト』『著作集』3収録]

A・A 諸国の民族主義 新しいかどうかの判定は将来の発展如何にかかる[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3327、11月28日

ハンガリー問題への影響 ソ連の態度を否定するもの弁護するもの[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3333、12月5日

オリンピックの教訓 日本側として反省すべきことも[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3341、12月14日

1957(昭和 32)年

強行された政略恩赦 指弾されるべきは保守政党ではなかった[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3355、1月8日

主婦連の性格と今後 思想面でも組織面でも現在のままでは行詰る[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3360、1月14日

皇太子モデル映画の波紋 「孤独の人」に出演した学習院大生への退学勧告をめぐって[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3374、1月31日

国民政党か階級政党か 社会党大会の結論をめぐって[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3380、2月7日

紀元節復活運動への反響 自民党の強行態度に国民の疑惑は深まった[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3389、2月18日

石橋首相の引退まで 進退問題よりも政界の動きの方が批判の対象となった[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3406、3月9日

ウェーバー社会学の全体的把握 金子栄一著『マックス・ウェーバー研究』『図書新聞』391、3月23日

〃船団派遣、への替否 新段階に入った原水爆実験反対運動をめぐって[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3418、3月25日

*田辺寿利教授を送る『東北社会学会会報』3、3月

西洋社会復興の一活路 W・リップマン著『公共の哲学』[「書評」]『時事通信 時事解説版』3425、4月2日

マルクス主義の転換 大衆ナショナリズムを再評価する松下論文と嶋崎氏の批判[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3430、4月8日

現代知識人の診断 大衆からの遊離、自国の伝統的文化への無関心[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3444、4月24日

都市と周辺農村との関係―合併による新市形成の場合[斉藤吉雄との共同執筆]『都市問題』48-5、5月1日
[『著作集』10収録]

社会心理学ブーム ジャーナリズムに現われた顕著な一傾向をどう見るか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3451、5月4日

「日中共同声明」への世論 主要紙の論調[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3456、5月10日

犬の社会問題化 他人に迷惑を及ぼす自由は認められない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3464、5月20日

大衆社会の理論 マルクス主義にもとづく松下圭一助教授の立場[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3470、5月27日

相馬ケ原事件の一波乱 日本の世論、硬化したアメリカの世論に一矢[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3478、6月5日

道徳教育実施への先決問題 当局側、教師側の基礎的な準備ができていない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3486、6月14日

人類と社会主義―ヒューマンイズムの現代的展開をめぐる―『社会学研究』13、6月15日

日米関係と経済危機 中公“水爆実験”を追う[「雑誌評・七月号の総合誌」]『時事通信 時事解説版』3497、6月27日

愛国心のゆくえ 「明治天皇と日露大戦争」好成绩の因をめぐる[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3503、7月4日

“党風刷新、への要望 一時の掛け声に終るものでないことを実証せよ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3511、7月13日

“暴力教師、事件の反省 究極的には社会のなかの暴力の問題につながる[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3520、7月24日

“経済危機”にソッポ 大河内氏が示した「最賃制」への見識 [「雑誌評 8月号の総合誌」]『時事通信 時事解説版』3523、7月27日

「学生の特権」への批判 学生みずから反省する必要がある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3527、8月1日

“修身科の独立、への意見 拙速主義の弊をとくに戒めたい[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3539、8月15日

国鉄闘争に重点出色のできばえ『中公』 古村氏の「地方文化論」[「雑誌評 9月号の総合誌」]『時事通信 時事解説版』3549、8月27日

創価学会の性格診断 批判者が希望的注文をつけるのは矛盾である[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3570、9月20日

福島選挙と自民党 選挙民をバカにして最大の教訓を逃すな[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3574、9月26日

各誌「特集」で競う 共通テーマは「憲法調査会」をめぐる[「雑誌評 10月号の総合誌」]『時事通信 時事解説版』3575、9月27日

中間層と中間文化 現代社会における中間層の新しい認識と評価[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3584、10月8日

リトルロック事件 米国の良識にとつての一つのテスト・ケース[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3593、10月18日

岸首相の政治技術 外見だけのショウマンシップに終つている[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3597、10月23日

型破りの政治評論『中公』戸川氏の「岸信介氏における政治技術発達史」[「雑誌評 11月の総合誌」]『時事通信 時事解説版』3602、10月29日

売春汚職への見方 徹底的に究明せねば“三悪追放”はカラ証文に終る[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3604、10月31日

三輪寿壯大君の思い出『民主社会主義』54・55、11月1日

中間層の実相 増大化するとともに、貧困化する傾向にある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3616、11月14日

「地方制」答申への疑問 改革の方向は地方制案と府県統合案とに限るまい[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3618、11月16日

共通ダネに”人工衛星” 現下政情の一診断書「第三政党必然論」[「雑誌評 12月号の総合誌」]『時事通信 時事解説版』3627、11月28日

大衆社会理論の構造—その支配的傾向—『理想』295、12月1日[『著作集』9収録]

衛星犬への推測 成果の独占は軍事的なねらいをもつからか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3632、12月4日

近代派建築への疑問 大宅氏の都庁庁舎への抗議を中心に[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3639、12月12日

ジラード判決後の問題 事件発生の根底的条件を解決しなければならぬ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3642、12月16日

指導性の概念—社会統制の機構として—『社会学研究』14、12月20日

高校生の集団万引事件 群集心理は不可抗力ではない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3651、12月26日

1958(昭和33)年

十年目の「成人の日」 形式に流れたり、認識が十分でなかつたり、への反省[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3668、1月23日

社会主義の新しい課題 現代的構造のあり方を究明する諸論文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3678、2月4日

今年の紀元節論議 三笠宮の提案と反響[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3680、2月6日

紀元節問題のゆくえ 自民党三度の復活提案で慎重論が有力化してきた[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3690、2月18日

総選挙の争点は何か 日本の民主政治の岐路としてとらえた二論文から[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3697、2月26日

日本の都市の現状と問題点 無計画性が何に由来するかを究明する座談会から[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3706、3月8日

学生スポーツのあり方 大昭和製紙と早大の桜井選手の問題をめぐって[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3716、3月20日

政治的無関心の解剖 究極においては日本人の国民性に根ざすもの[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3722、3月28日

神風タクシー禍の対策 非近代的経営体制の改善が先決である[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3728、4月4日

ソ連政治の将来 フルシチョフ第一書記の首相兼任をめぐって[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3731、4月8日

実施に入った売春防止法 今後に残された問題点を主要紙の社説に拾う[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3738、4月16日

圧力団体の政治的機能 日本での現状は未成熟であり、病理化している[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3751、5月2日

騒音退治の第一歩 大阪での成功を先例に、全国的な規模に押しひろげよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3757、5月12日

日本社会学の過去・現在および未来—日本社会学会大会三〇周年記念講演—『社会学評論』8・3、5月20日[『著作集』9収録]

“人間天皇”の問題 あり方についての注目すべき二論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3768、5月24日

現代のサラリーマン層 地位と意識を評定した田沼氏の論文[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3773、5月30日

神風タクシーの対策 業者の反省も当局の取締りももつと促進されねばならぬ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3782、6月10日

国民年金制度のゆくえ 答申は出たが、問題は実行いかんにある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3796、6月26日

三つの二大政党論 総選挙をかえりみる学問的な分析[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3804、7月5日

横井社長射撃事件の反響 警察は暴力の組織と正面から対決する陣容をととのえよ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3812、7月15日

悲劇の再発防止のために 姉妹の父親殺し事件をめぐって[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3818、7月22日

安保理内の首脳会談 形式上は国連尊重の建前になっているが—[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3832、8月7日

日本人の夏の服装 軽装にもエチケットの問題はある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3837、8月13日

活字と電波との比較 ラジオ・テレビ側の新聞への挑戦[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3844、8月21日

原水爆禁止運動の岐路 政治的色彩を濃厚にしてきた[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3856、9月4日

社会党と勤評闘争 自民党の態度を問題外におくのは片手落だ[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』

3869、9月19日

少年犯罪への対策 少年法の年齢引下げ案と外的環境の改善策をめぐって[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3882、10月6日

就職問題改善の一案 注目される大河内教授の分析と提案[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3895、10月21日

警職法改正をめぐる論調 視野を局所に限定する賛成論全体の中でとらえる反対論 提出の仕方への疑惑 [「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3897、10月23日

少年犯罪対策の問題点 少年保護の精神を見失ってはならぬ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3903、10月30日

特急タダ乗りの問題 問題は小さいようだが、軽く見すごすことはできない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3908、11月6日

変則国会をめぐる世論 政府・与党・議長・副議長の態度に批判が集中した[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3918、11月18日

「文化の日」の反省 言葉だけで浮上つてしまっている[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3921、11月21日

変則国会をめぐる論調 統一行動から両党幹部会談までの新聞社説と署名稿 社会党への注文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3926、11月27日

ドイツ的文化社会学への招待 アルフレート・ウェーバー著文化社会学『図書新聞』479、12月6日

フラ・フープの流行 “空白国会”と“ナベ底景気”にどこかでつながっていた[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3938、12月11日

皇太子妃決定の反響 人間皇太子への好感にあふれていた[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3950、12月25日

ジンメル思想の日本への影響[Georg Simmel's Influence on Japanese Thought, *Georg Simmel, 1858-1918*の邦訳]『社会学評論』9-2、12月30日[『現代社会学の視角』『著作集』9収録]

1959(昭和34)年

皇室をめぐる最近の話題 東宮新御所入札問題と皇居開放論[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3965、1月20日

「向坂論文」の反響 総合雑誌、機関誌の論文を中心に[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3967、1月22日

地域社会学の問題点—最近のドイツ社会学における成果を中心として—『社会学研究』16、1月30日

マス・コミ論の問題点 必ずしも万能ではない[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3982、2月9日

混乱の都市・東京の解剖 都政の問題点をつく『世界』の特集から[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3988、2月16日

現行選挙制度の矛盾 選挙法別表の不備による選挙権の不平等をつく清水論文[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』3994、2月23日

三笠宮の紀元節反対論 ことしの二月十一日の回顧とともに[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』3998、2月27日

市町村合併による地域社会の変貌『都市問題』50-3、3月1日[『著作集』10収録]

伊勢神宮の国家保護 “信教の自由”に危機がもたらされはしないか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4012、3月16日

首長汚職の続発 背景には地方行政に対する選挙民の無関心がある[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4016、3月20日

地方選挙への展望 事前運動と”恩赦”によつて開幕前から機能を失っている[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4031、4月8日

恩赦の乱用 一刻も早く恩赦法を改正する必要がある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4042、4月22日

大学の変貌 理想と現実との間には大きな距たりがある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4052、5月6日

今回の地方選挙の意義 「党か人か」の問題の究明[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4066、5月22日

選挙はこれでいいのか 地方選挙をかえりみでの批判[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4072、5月29日

難航する図書選定制度 民間の選定機関を育成するのが本筋ではないか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4079、6月6日

参議院の政党化 “政党禍”と同視するのは現実的ではない[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4093、6月23日

*東北社会学会第六回大会を迎えて『東北社会学会会報』7、6月

週刊誌ブーム 週刊誌のあり方をめぐる識者の批判、当事者の意見[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4107、7月9日

社会党の自己批判 参院選挙後の動きと一般の見方[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4112、7月15日

特色ある社会学概説書『週刊読書人』285、7月27日

競輪廃止論の再熱 是非を論ずる段階ではない 政府の断をまつのみだ[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4128、8月3日

山岸会事件をどう見たか 現代社会の実相の病的な一反映ではないのか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4131、8月6日

少年法の改正問題 条文いじりよりも専門機関を尊重すること[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4137、8月13日

“鉛筆の両端の二小政党、日本の二大政党の現状に対する笠氏の批判[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4142、8月19日

産業都市の構造分析—釜石市を手がかりとして—『社会学研究』17、8月30日[『著作集』10収録]

わが国都市社会学の動向—その方向と課題を中心として—『都市問題』50-9、9月1日[『著作集』10収録]

アメリカの都市改造運動[「アメリカ通信」]『河北新報』9月7、16日

戦後世代の断層 第二の戦後世代としての二十代層の特徴[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4159、

9月8日

日本社会党の針路 分裂の危機をめぐる世論の動向[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4192、10月17日

社会党の分裂をめぐつて 両者の“共存的競争”と協調とを/望む声強い[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4213、11月12日

諸君の諮問機関作れ[「東北開発に望む、大学の研究室から」]『河北新報』11月13日

ベルリンの表情はおだやかに[「世界手帖」]『世界週報』40-46、11月17日

競輪廃止への要望 競輪に依存しないでも地方財政は健全化できる[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4229、12月2日

ドイツ社民党の転向 日本社会党の混迷への教訓[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4245、12月21日

政治評論この一年 新聞論調と総合雑誌の主張との間の断層[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4249、12月25日

*ホテル社会学考『東北社会学会会報』9、12月

1960(昭和35)年

H.Becker and A.Boskoff(eds.),"Modern Sociological Theory"1957[書評]『社会学研究』18、1月3日

機能の概念について[「研究ノート」]『社会学評論』10-1、1月30日[「社会学的機能主義」収録]

競輪廃止への抵抗 政府はなぜ廃止に踏み切れないか[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4256、1月8日

学生運動の試練 全学連の東大ろう城事件をめぐる新聞論調[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4262、1月16日

民社党の暫定綱領案 学問的一般論に傾斜し具体的政策が不明確[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4271、1月27日

マス・コミ病時代 日本の場合には特別な症状があらわれている[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4280、2月6日

社会学国際会議に列席して『文化』23-4、2月10日

大学自治のあり方 “自治”を確立するには特権意識の打破が不可欠[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4289、2月17日

怒る学生と怒らない学生[「月曜評論」]『河北新報』2月22日

中産階級とは何か その経済的側面と政治意識的側面からの分析[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4296、2月25日

国会解散の論拠 安保批准との関連において[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4306、3月8日

現代知識人の状況 近代的伝統との関連において[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4311、3月14日

松島タワー事件 文化財を傷つける営利主義の一例[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4319、3月23日

安保批判と国民の意思 国民投票法の制定を要望する声も起きている[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4325、3月30日

道路交通法案の問題点 取り締まりには限界がある[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4335、4月11日

毎日新聞社襲撃事件 暴力団の新聞への挑戦は何を意味するか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4349、4月27日

自民党の祝休日増加案 結構づくめようだが問題点はかなり多い[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4357、5月10日

憲法への認識 満十三年目の憲法記念日を国民はどう迎えたか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4366、5月20日

大衆娯楽の問題性 社会的状況とのつながりについて[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4373、5月28日

中間階級論の動向 その独自性を強調するものと否定するものと[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4380、6月6日

社会党議員の総辞職 世論はこれをどう見ているか[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4384、6月10日

大衆運動とその責任 ハガチー事件前後の世論の動向[「時論要解 社会」]『時事通信 時事解説版』4391、6月18日

何が正しい世論なのか “声ある声”と“声なき声”をめぐって[「時論要解 政治」]『時事通信 時事解説版』4396、6月24日

*第七回大会を迎えて『東北社会学会会報』11、6月

大衆運動とその責任—いわゆる安保闘争をかえりみて—『官公労働』14-8、8月15日

*現代における社会思潮『東北社会学会会報』12、11月

1961(昭和36)年

コミュニティー・オーガニゼーションの理論—アメリカにおけるその展開と問題点—『東北大学文学部研究年報』11、3月20日[『著作集』10収録]

日本社会史学会の出発にあたって『社会史研究』1、5月1日

行為関連の立場について『社会学研究』20、5月30日

1962(昭和37)年

老年と保守主義『明治学院論叢』68、2月

日高六郎著 現代イデオロギー[書評]『社会学評論』12-3・4、3月31日

都市化の理論をめぐって『都市問題』53-4、4月1日[『著作集』10収録]

*ごあいさつ『東北大学文学部社会学科同窓会会報』1、6月

*アーバン・リニューアル(都市更新)『東北都市学会会報』3、6月[『著作集』10収録]

*第九回学会大会雑感『東北社会学会会報』18、8月

矢崎武夫「日本都市の発展過程」[書評]『社会学研究』21、9月10日

都市化の理論をめぐって－「シンポジウム」の報告と討論の成果－[「都市化の理論」]『社会学評論』13-3、10月20日[『著作集』10収録]

アメリカ都市社会学の問題点－ショーパークとドン・マーチンデールの批判的立場－『明治学院論叢』72、11月[『著作集』10収録]

*仙台市長選に参加して－十日間の回顧－『志向』<東北大学文学部社会学専攻生同人誌>1、月日未詳[『新明社会学研究』第6号(1996年10月25日)収録]

1963(昭和38)年

都市化理論の現状分析『東北福祉大学論叢』5、3月[『著作集』10収録]

阿閉吉男編社会科学の古典 違和を感じない親しみやすい古典案内『図書新聞』706、5月18日

社会学から見た福祉国家の理念『福祉国家』15、6月15日[『福祉国家とは何か－その理念と日本の現実を探る－』<研究資料 第10号>(福祉社会研究会、1964年6月5日)収録]

市民意識の社会学的考察『都市問題』54-7、7月1日[『著作集』10収録]

キリスト教と民主主義[特別公開講演]『キリスト教文化学会年報』10、8月31日

1964(昭和39)年

現憲法は堅持、顕揚すべきもの[「特集憲法改正をどうみるか」]『ジュリスト』289、1月1日

行政都市の社会学的意義－都市社会学への一反省として－『明治学院論叢』88、3月[『著作集』10収録]

真人[「群像の中から」表紙裏]『創文』19、6月1日

疎外の概念の思想史的系譜－社会学との関連において－『白門』16-8、8月1日

松竹梅の三福対[「交友抄」]『日本経済新聞』10月17日

1965(昭和40)年

『イデオロギーの終焉』『中央評論』16-4、1月1日

白井二尚著 社会学論集[書評]『社会学評論』15-2、1月30日[表紙には1964年12月15日とある]

クーリーの社会組織の概念について『中央大学文学部紀要』39[中央大学文学部紀要哲学科11]、5月30日[『現代社会学の視角』収録]

*大会へのご招待『関東社会学会ニュース』23、6月

『形式社会学論』[「処女作の思い出」]『創文』33、11月1日

少女と島国根性[「ちょっと気になること」]『太陽』3-12、11月12日

1966(昭和 41)年

富永健一著社会変動の理論経済社会学的研究 社会変動論の一試図 経済の社会的関連を焦点にすえて『週刊読書人』613、2月21日

人口老令化の社会的影響－思想的側面を中心として－『日本老年医学会雑誌』3-Supplement1、3月31日

N・コールドー編赤木昭夫、須之部淑男訳二十年後の世界 I II 信頼度の高い未来図 明るい科学、暗い社会〔読書〕『読売新聞[夕刊]』6月16日

社会科学部門の推進を 太平洋学術会議への期待〔文化〕『読売新聞[夕刊]』8月19日

社会学における行為理論の意義－特にパーソンズを中心として『社会学研究』27、9月15日〔社会学における行為理論と社会学的機能主義〕と改題『社会学的機能主義』収録

〔編者の私信から〕中の上木敏郎宛書信の一節『土田杏村とその時代』5、12月28日

1967(昭和 42)年

社会開発の問題点『中央大学学報』30-1、1月1日〔『著作集』10収録〕

建部遯吾博士の片影－明治社会学史の一齣－『社会学論叢』37、4月30日〔『現代社会学の視角』収録〕

陳紹馨博士の逝去を悼む『社会学研究』28、7月15日

遥かなる追憶〔特集・ロシア革命から五十年 日本に与えた衝撃〕『自由』9-11、11月1日〔遥かなる追憶－ロシア革命から五十年－〕と改題『ワイマール・ドイツの回想』収録

1968(昭和 43)年

社会学五十年の回顧『中央大学学報』31-2、3月1日〔『現代社会学の視角』『ワイマール・ドイツの回想』収録〕

信濃自由大学の思い出『土田杏村とその時代』7・8、3月20日

社会学的機能主義への一批判－ハーンの場合－『社会学と福祉学』11-1・2、3月

構造主義の流行『ジュリスト』399、6月1日

1969(昭和 44)年

行為的アプローチの源流〔社会学の課題と展開・新明正道先生古稀記念特集〕『中央大学文学部紀要』53〔中央大学文学部紀要哲学科 15〕、3月30日〔社会学における行為理論の源流〕と改題『社会学における行為理論』収録

機能主義的社会変動論の問題点〔機能主義は社会変動を処理しうるか〕『社会学評論』20-1、7月30日

独自の知性の思想家〔長谷川如是閑翁を悼む〕『[中央大学]学員時報』29、12月10日

1970(昭和 45)年

イデオロギー概念の歴史的変容『八幡大学論集』20-3・4、3月31日〔『現代社会学の視角』収録〕

1971(昭和 46)年

マックス・ウェーバーの社会学における行為理論の意義『立正大学文学部論叢』39、3月25日[「M.ウェーバー「行為理論」の社会的意義】(『現代社会の構造と変動 早瀬利雄博士退官記念論文集』新評論、1970年)の改訂稿、のち「マックス・ウェーバーの社会学における行為理論」と改題『社会学における行為理論』収録]

1973(昭和 48)年

はしがき『立正大学人文科学研究所年報』10、3月15日

井口孝親さんと令夫人のこども『社会学研究年報』<九州大学社会学会>5、5月10日

高田保馬博士[「私の先生】『社会科学の方法』6-8、8月10日[「高田保馬博士と私】と改題『現代社会学の視角』収録]

現代社会学における行為的アプローチの位置—その展望と問題点—『立正大学文学部論叢』47、9月10日[「現代社会学における行為理論」と改題『社会学における行為理論』収録]

はしがき『立正大学人文科学研究所年報』11、[刊行月日未詳、3月10日執筆]

1975(昭和 50)年

松本社会学における行為理論『立正大学社会学・社会福祉学論叢』10、3月25日[『現代社会学の視角』収録]

はしがき『立正大学人文科学研究所年報』12、3月31日

綿貫哲雄著 維新と革命[書評]『社会学評論』26-1、7月31日

自由大学の思い出『自由大学研究』4、9月13日[自由大学研究会編『自由大学運動と現代 自由大学運動六〇周年集会報告集』(信州白樺、1983年10月10日)収録]

1977(昭和 52)年

社会学における「日常生活」の概念について—アメリカ社会学の場合—『Sociologica』1-1、2月[『現代社会学の視角』収録]

戦前の日本社会学『社会学評論』28-2、10月30日

大熊信行—その人と思想を語る『創価大学新聞』43、11月5日[10月24日追悼座談会(於銀座ホテル):中山伊知郎、板垣与一、志村栄一]

自転車についての所感[「随想】『交通安全教育』12-12、11月10日

1978(昭和 53)年

所感『[明治学院大学大学院社会学研究科]社会学専攻紀要』1、2月

現代における社会学の学問的位置—社会学の危機とその底流—『Sociologica』2-2、3月[『現代社会学の視角』収録]

国家論への関心の一軌跡—『国家科学への道』(一九三一年)から『国家悪』(一九五七年)へ—『国家論研

究』15、2月10日[「大熊信行君における国家論の軌跡」と改題『現代社会学の視角』収録]

土田杏村の思い出『信州白樺』29、5月20日

総合社会学の構想を中心として[「日本社会学の展開」]『社会学評論』29-1、7月31日[『現代社会学の視角』収録]

1979(昭和54)年

ルソーと社会学『Sociologica』3-2、3月[『著作集』5収録]

「社会学の社会学」の社会学『社会学研究』37、5月5日[『現代社会学の視角』収録]

西村勝比古君の死を悼む[「追悼 西村勝比古教授」]『Sociologica』4-1、11月

1980(昭和55)年

日本社会学の展開－社会学部設立20周年記念講演－『関西学院大学社会学部紀要』40、3月20日[『著作集』5収録]

「パーソンズ時代」の遠近像－グルドナーの「パーソンズの構造的機能主義の時代」をめぐって－
『Sociologica』4-2、3月[『タルコット・パーソンズ』『著作集』5収録]

スポーツと政治[巻頭言]『会報』<創価大学平和学会>2、5月3日

新堀通也著ルソー再興[「書評」]『社会学評論』31-1、6月30日

1981(昭和56)年

タルコット・パーソンズについて－その学問的業績の全体像－『日本学士院紀要』37-1、3月12日[『タルコット・パーソンズ』収録]

平和思想への志向－人道主義と社会主義－『創大平和研究』2、3月20日[『ワイマール・ドイツの回想』収録]

パーソンズの社会学の概念について『Sociologica』5-2、3月[『タルコット・パーソンズ』収録]

1982(昭和57)年

パーソンズのマックス・ウェーバー解釈について－特に彼の行為理論を中心として－『Sociologica』6-1、2月[『タルコット・パーソンズ』収録]

1983(昭和58)年

書き方と読み方[「鉄笛」]『大法輪』50-3、3月1日

トルストイの平和思想について[講演]『会報』<創価大学平和学会>4・5、5月3日

新人会について『東京帝大新人会研究ノート』5、11月20日

社会学における比較分析の歴史的考察『創価大学比較文化研究』1、12月1日

ケルン大伽藍の空のもとで(一九二九年十一月十八日から十二月十三日)『Sociologica』8-1、12月[「ケルン大伽藍の空のもとで(一九二九年十一月十一日から十二月十五日)」と改題『ワイマール・ドイツの回想』収録]

1984(昭和 59)年

弔詞[早瀬利雄追悼]『社会学史研究』6、3月25日

1985(昭和 60)年

政治学から社会学へ[インタビュー・この人この本]『現代社会学』20、11月20日

1992(平成 4)年

新明正道先生・回想の八十年[インタビュー記録]『新明社会学研究』1、3月1日[山本鎮雄・田野崎昭夫編『新明社会学の研究—論考と資料—』(時潮社、1996年10月14日)収録]

伯林日記 第二(1929年6月25日～8月30日)[日記]『新明社会学研究』2、12月10日[『ドイツ留学日記』収録]

伯林日記 第三(1929年9月1日～10月10日)[日記]『新明社会学研究』2、12月10日[『ドイツ留学日記』収録]

中国訪問記(1940年6月の日記から)[日記]『新明社会学研究』2、12月10日[山本鎮雄・田野崎昭夫編『新明社会学の研究—論考と資料—』(時潮社、1996年10月14日)収録]

社会学方法論への断片[断章]『新明社会学研究』2、12月10日

1993(平成 5)年

伯林到着まで(1929年4月6日～4月25日)[日記]『新明社会学研究』3、12月15日[『ドイツ留学日記』収録]

伯林日記 第一(1929年4月25日～6月24日)[日記]『新明社会学研究』3、12月15日[『ドイツ留学日記』収録]

1994(平成 6)年

ヨーロッパを旅して[日記]『新明社会学研究』4、9月25日[『ドイツ留学日記』収録]

ヨーロッパを去りつつ[日記]『新明社会学研究』4、9月25日[『ドイツ留学日記』収録]

1995(平成 7)年

満州旅行記[日記]『新明社会学研究』5、9月20日

2003(平成 15)年

自叙伝『新明社会学研究』8、9、12月10日、**2004年**12月10日

我が文学青年の頃『新明社会学研究』8、12月10日

2005(平成 17)年

政治社会学[1954年度「社会学特殊講義Ⅱ」聴講筆記]『新明社会学研究』10、11、12月10日、**2007年**4月15日

2008(平成 20)年

松沢兼人君を偲んで[追憶]『新明社会学研究』12、3月25日

2009(平成 21)年

長谷川如是閑翁をいたむ『新明社会学研究』13、10月1日[自筆原稿、発表の有無未詳]

3. 戦時評論集初出一覧

戦時下の評論集(『文化の課題』『東亜協同体の理想』『思想への欲求』『政治の理論』『民族社会学の構想』)の収録評論と初出一覧を記した。単行書収録時に改題されている評論のみ、初出原題を記した。

『文化の課題』河出書房、1938年2月20日

| | |
|----------------------|--|
| 1 知識人の性格 | |
| 1 知識人の横顔 | 我が知識人の横顔『神戸商大新聞』71、1936年4月20日 |
| 2 学生の無性格 | 現代学生論『都新聞』1937年11月24～27日 |
| 3 学生は髪を切るべきか | 『中央公論』53-1、1938年1月1日 |
| 4 学生の道徳 | 初出未詳 |
| 5 大学と世界観の論議 | 大学における世界観の論議『理想』43、1933年11月1日 |
| 6 自由主義の将来 | 『理想』67、1936年10月1日 |
| 7 議会主義と合理主義 | 『日本評論』10-10、1935年10月1日 |
| 8 イタリーの時局教育 | 『教育』6-1、1938年1月1日 |
| 9 近代種族理論 | 『外交時報』771、1937年1月15日 |
| 2 科学と文学 | |
| 1 歴史と伝統 | 『京都帝国大学新聞』274、1938年1月20日 |
| 2 科学の敵 | 初出未詳 |
| 3 文学の翼 | 初出未詳 |
| 4 思想と文学 | 初出未詳 |
| 5 知性への不信 | 文壇の新底流への批判『大阪朝日新聞』1937年1月28日、2月2、3日 |
| 6 『地下室の人間』—シエストフのこと— | 『地下室の人間』の批評—シエストフのこと—『作品』6-1、1935年1月1日 |
| 7 現代作家の社会意識 | 『中央公論』51-4、1936年4月1日 |
| 3 文化の課題 | |
| 1 現代文化の反省 | 初出未詳 |
| 2 映画の文化的役割 | 映画の文化的役割『日本映画』2-6、1937年6月1日 |
| 3 デュヴィヴィエ | 初出未詳 |
| 4 映画の敗北—フェーデについて— | 初出未詳 |
| 5 ラヂオ批判の考察 | ラヂオ批判の考察『放送』5-7、1935年7月15日 |
| 6 ラヂオの文化的指導性 | 国民文化の基準と放送の首導性『放送』6-1、1936年1月15日 |
| 7 ラヂオの娯楽性と倫理性 | 『放送』6-10、1936年10月5日 |
| 8 日本文化と世界文化 | 『歴史公論』6-5、1937年5月1日 |
| 9 国民的性格論 | 日本社会の特徴—国民的性格の再認識—『サラリーマン』8-7、1935年7月1日 |
| 10 戦後のフランス思想家 | フランス[「噴火山上における世界文化の地位」]『読売新聞』1937年4月13-15日 |

『東亜協同体の理想』日本青年外交協会出版部、1939年10月8日

| | |
|-----------------|---|
| 緒論 東亜的国民の啓蒙 | 東亜的国民の啓蒙『関西学院新聞』154、1939年6月20日 |
| 第1章 日支事変の教へるもの | 事変の教訓『日本評論』14-8、1939年8月1日 |
| 第2章 新東亜社会建設への責務 | 新東亜社会建設への責務『外交時報』831、1939年7月15日 |
| 第3章 東亜協同体と民族主義 | 東亜協同体と民族問題『東亜解放』1-1、1939年8月1日 |
| 第4章 東亜協同体と人種理論 | 京都帝国大学での講演 |
| 第5章 東亜新文化の基礎的方向 | 東亜協同体と新文化の創造『文芸春秋』17-15、1939年8月1日。大幅に加筆して収録。 |
| 第6章 国民社会新組織の問題 | 国民社会の新組織問題[「国内制度改革問題」]『経済情報 政経篇』14-18、1939年7月10日。大幅に加筆して収録。 |
| 第7章 東亜協同体と協同主義 | 協同主義の現代日本における役割『改造』21-8、1939年8月1日 |
| 第8章 東亜協同体論の動向 | 東亜協同体論の動向『国民新聞』1939年7月19、20、21、22、24日。大幅に加筆して収録。 |

『思想への欲求』三笠書房、1941年4月12日

| | |
|-------------------------------|---|
| 1 思想への欲求 | |
| 1 二十世紀の政治 | 『日本評論』13-8、1938年7月1日 |
| 2 群集時代の克服 | 現代の社会生活『現代社会生活』<現代教養講座 第6巻> 三笠書房、1940年1月18日 |
| 3 思想への欲求 | 『日本評論』15-7、1940年7月1日 |
| 4 イデオロギーの類廃 | 『知性』2-11、1939年11月1日 |
| 5 思想的転換の動向 | 論壇十五年『日本評論』15-4、1940年4月1日 |
| 6 現時の日本社会科学 | 日本社会科学の方向『日本評論』15-11、1940年11月1日 |
| 7 新体制と個性 | 新体制と個性の問題『東京朝日新聞』1940年9月20～22日 |
| 8 思想動員の要諦 | 思想動員の本質認識『日本評論』12-10、1937年9月1日 |
| 9 思想統制の問題 | 『日本評論』13-3、1938年2月1日 |
| 10 日本主義の創造的契機 | 『日本評論』13-6、1938年5月1日 |
| 2 青年と学生 | |
| 1 青年問題の意義 | 青年と社会『社会史』加田哲二著<現代日本文明史 第11巻> 付録第2号、東洋経済新報社、1940年8月26日 |
| 2 青年と新体制 | 青年の奮起と政治参加『大陸』3-12、1940年12月1日 |
| 3 試験地獄 | 『中外商業新報』1939年3月9～11日 |
| 4 学生政策論 | 『東京日日新聞』1940年11月25～27日 |
| 5 青年政策の反省 | 青年論 姑息政策の反省『帝国大学新聞』830、1940年11月4日 |
| 6 現代の学生論 | 『学生のための教養』<学生教養講座 第1巻>三笠書房、 1940年12月15日 |
| 7 学問の自主性と政治 | 『知性』2-4、1939年4月1日 |
| 8 知性の問題を繞つて | 初出未詳 |
| 9 新時代に生きる女性へ | 新時代に生きる女性へ贈る言葉『婦人公論』23-10、1938年 10月1日 |
| 10 女性と読書について | 『婦人公論』24-6、1939年6月1日 |
| 3 新文化の進路 | |
| 1 科学と道徳 | 科学と社会『科学主義工業』1-11、1938年4月1日 |
| 2 道具の社会的理念 | 『科学主義工業』2-5、1938年10月1日 |
| 3 機械と手 | 『科学主義工業』4-1、1940年1月1日 |
| 4 産業発展の要素 | 『帝国大学新聞』756、1939年3月6日 |
| 5 科学大衆化について | 科学大衆化に就ての一考察—読書による科学教育の問題— 『科学ペン』5-4、1940年4月1日 |
| 6 放送と国民文化 | 国民文化振興と放送『放送』10-11、1940年11月15日 |
| 7 ジャーナリズムの変貌 | ジャーナリズムの本質と其発展『放送』9-8、1939年8月15日。 冒頭の一節「ジャーナリズムとは何か」を削除して収録。 |
| 8 ある作家への期待 | 文学的雑感『新潮』37-9、1940年9月1日 |
| 9 美術家の進路 | 革新と前進『アトリエ』17-14、1940年12月1日 |
| 10 日本人の分析 —林語堂はこれをどう分析したか— | 『読売新聞[夕刊]』1938年10月20、21、23日 |
| 11 日本人の気持 | 『科学知識』20-7、1940年7月1日 |
| 12 支那と文化日本 | 『帝国大学新聞』739、1938年11月7日 |

『政治の理論』慶應書房、1941年9月15日

| | |
|----------------|--|
| 第1部 国民再組織 | |
| 1 国民再組織の将来 | 国民再組織将来の問題『九州日日新聞』1939年1月7日 |
| 2 国民再組織の問題 | 国民社会の新組織問題『経済情報 政経篇』14-18、1939年 7月10日 |
| 3 超克さるべき現政局 | 『エコノミスト』18-12、1940年4月15日 |
| 4 新党運動の根底にあるもの | 『日本評論』15-6、1940年6月1日 |
| 5 単一政党運動批判 | 『エコノミスト』18-21、1940年6月17日 |
| 6 転換期政局の基調 | 『商工経済』10-3、1940年9月1日 |
| 7 新体制の政治学 | 『日本評論』15-9、1940年9月1日 |
| 8 新体制と国民組織 | 『蒙古』7-10(通巻101)、1940年10月1日 |
| 9 大政翼賛会の本質 | 『エコノミスト』18-43、1940年11月18日 |
| 10 大政翼賛会の出発 | 新体制の組織と人『東亜連盟』2-12、1940年12月1日 |
| 11 大政翼賛会の進路 | 『帝国大学新聞』839、1941年1月13日 |

| | |
|--------------------------|--|
| 12 大政翼賛会の性格について | 大政翼賛会の性格に就て『三田新聞』451、1941年1月15日 |
| 13 翼賛会運動の危機 | 『日本評論』16-4、1941年4月1日 |
| 14 革新の停滞とその打開 | 『改造』23-8、1941年4月2日 |
| 15 政治力の追求 | 『知性』4-6、1941年6月1日 |
| 第2部 東亜における新秩序 | |
| 1 近衛声明一周年 | 『改造』22-1、1940年1月1日 |
| 2 東亜新秩序建設の目的 | 政治革命と精神革命『世界週刊』3-21、1940年6月1日 |
| 3 三民主義の新時代的意義 | 『世界週刊』3-1、1939年12月23日 |
| 4 東亜新秩序の歴史的意義 | 欧州連邦と東亜連邦—東亜協同体論のために—『外交時報』842、1940年1月1日 |
| 5 東亜新秩序の反共的性格 | 東亜新秩序の反共性『東亜解放』2-5、1940年5月1日 |
| 6 東亜協同体と国民再編成 | 『大陸』3-6、1940年6月1日 |
| 7 東亜連盟論の理論的検討 | 『東亜解放』2-6、1940年6月1日 |
| 8 新東亜建設政策の全体的統合へ | 新東亜建設政策の全体的統合『蒙古』7-7(通巻98)、1940年7月1日 |
| 9 新東亜建設戦の現段階 | 『外交時報』867、1941年1月15日 |
| 10 和平支那と新東亜建設理論 | 初出未詳、1941年2月 |
| 11 いかにして新東亜建設運動を前進せしむべきか | 『日本評論』16-3、1941年3月1日 |
| 12 興亜政策への基本的認識 | 『日本評論』16-7、1941年7月1日 |
| 13 アジア民族政策論 | 『大陸』4-3、1941年3月1日 |
| 14 事変新局面の展望 | 事変新局面への展望『大陸』4-6、1941年6月1日 |
| 第3部 世界政策の新展望 | |
| 1 世界政策構成の諸要素 | 『東亜連盟』2-8、1940年8月1日 |
| 2 共産主義の転落 | 『日本評論』14-12、1939年12月1日 |
| 3 独逸は変貌するか | 『経済情報政経篇』15-4、1940年3月10日 |
| 4 独逸と世界新秩序 | 『外交時報』858、1940年9月1日 |
| 5 アメリカの社会的動向 | アメリカの社会機構『理想』109、1940年6月1日 |

『民族社会学の構想』三笠書房、1942年10月20日

| | |
|---------------|---|
| 第1部 | |
| 第1章 民族の概念 | 民族の本質とその起源『人口問題』4-3、1942年1月31日 |
| 第2章 民族の起源 | 民族及びその起源の問題『知性』4-12、1941年12月1日 |
| 第3章 民族主義と国民主義 | 民族主義と国民主義『財政』6-12、1941年12月1日 |
| 第4章 人種主義について | ナチズム批判—アリア人種主義の問題—『日本評論』14-10、1939年10月1日 |
| 第5章 欧羅巴国民の考察 | 欧羅巴の人種、国民及び民族『欧洲総論・北欧』<世界地理 第11巻>河出書房、1940年5月4日 |
| 第2部 | |
| 1 戦争の本質と諸形式 | 民族社会の成立における戦争の役割『民族と戦争』日本青年外交協会、1939年6月18日 |
| 2 社会進化と戦争 | 『理想』123、1941年8月1日 |
| 3 戦時生活の倫理 | 『科学主義工業』6-1、1942年1月1日 |
| 第3部 | |
| 1 血縁論 | 『家族制度全集 史論篇 第三巻 親子』河出書房、1937年12月20日 |
| 2 家族構成論 | 『家族制度全集 史論篇 第四巻 家』河出書房、1938年1月20日 |
| 3 都市社会学の方法論 | 都市社会学の方法論的考察『都市問題』30-6、1940年6月1日 |
| 4 パレート社会学の論理 | ファシズムの論理 パレート社会学の根本問題『イタリア』1-1、1941年4月1日 |
| 5 ヴィルフレド・パレート | 『全体主義』<廿世紀思想 第8巻>河出書房、1939年3月18日 |
| 6 実用主義について | 実用主義概論『実用主義』<廿世紀思想 第2巻>河出書房、1938年6月10日 |
| 7 経済人の終焉 | 『商工経済』12-3、1941年9月1日 |
| 8 三つの人間学 | 『文化』8-9、1941年9月1日 |
| 9 市民的人間 | 市民社会の人間観『人間の宗教的歴史的考察』<人間学講座IV>理想社出版部、1939年1月25日 |